

青森県立美術館

年報

平成23年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 029 常設展

学芸

- 038 美術資料収集
- 042 美術資料貸出状況
- 044 作品保存修復

教育普及

- 046 普及プログラム
- 052 スクールプログラム
- 054 サポートスタッフ
- 055 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 058 演劇
- 060 ドラマリーディング
- 063 音楽

サービス等

- 068 貸館
- 070 図書室
- 072 キッズルーム・フリーアトリエ
- 073 博物館実習

資料

- 076 広報
- 078 広聴
- 079 入館者数
- 080 運営予算・決算
- 081 組織
- 082 関係規程等
- 086 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置 (青木淳氏、奈良美智氏、逢坂恵理子氏 委員就任)
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館(館長 三村 申吾)
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録(青森県教育委員会告示第11号)
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置 (塚原隆市氏、鷹山ひばり氏、手塚治氏、風晴史子氏、佐々木健氏、田中博氏、本多信雄氏 委員就任)
2007年11月10日	「美術館ユビキタスシステム」国内の美術館・博物館の中で初導入
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成

展覧会

企画展

青木淳×杉戸洋展
光を描く 印象派展
今和次郎展

常設展

春のコレクション展
夏のコレクション展
秋のコレクション展
冬のコレクション展

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

青木淳 × 杉戸洋 はっぱとはらっぱ

※下記のとおり開催を予定していたが、東日本大震災の影響により開催中止。

開催概要

会場：青森県立美術館

会期：2011年4月23日（土）－6月12日（日）

※休館日：5月9日（月）、5月23日（月）

開館時間：

4月23日－5月31日 9:30－17:00（入館は16:30まで）

6月1日－6月12日 9:00－18:00（入館は17:30まで）

主催：青木淳 × 杉戸洋展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社）

協賛：資生堂

特別協力：平岡織染株式会社、トラスコ中山株式会社

協力：青森県テント・シート工業組合、金箱構造設計事務所、黒沢建設株式会社、小岩金網株式会社、小山登美夫ギャラリー、北斗建設株式会社、ミナベルホネン、株式会社森村設計、Easy Living

後援：青森県教育委員会、NHK青森放送局、JR東日本盛岡支社、社団法人日本建築学会東北支部青森支所、社団法人青森県建築士会、社団法人青森県建築士事務所協会、社団法人日本建築家協会東北支部青森地域会、あおもりデザイン協会、新建築家技術者集団、Ahaus編集部、あおもりインテリアコーディネーター倶楽部、NPO harappa

観覧料：

[はっぱとはらっぱ展]		[常設展とのセット券]	
一般	1,100円(900円)	一般	1,400円(1,200円)
高・大生	600円(500円)	高・大生	800円(700円)
小・中生	300円(200円)	小・中生	350円(250円)

※()内は20名以上の団体割引料金

※心身に障がいがある方と付添者1名は無料

※大学、工業高等専門学校、高校、専門学校等で、建築を学んでいる学生の方は、在籍する学科を証明できる学生証等をご呈示いただくことで、団体割引料金でご観覧いただくことができます。



ポスター

青森県立美術館開館 5周年を記念した、青森県立美術館の建築に光をあてた展覧会。

青森県立美術館をはじめ、個人住宅、商業施設など、多岐にわたって独創的な設計を行ない、高い評価を得てきた建築家・青木淳、絵画の新しいありようを提示し、国内外で注目されてきた画家・杉戸洋。二人のアーティストが、青森県立美術館の空間の魅力を存分に味わってもらうため、建築と美術の垣根をこえて展示を作り上げる、これまでにない趣向の建築展。

●青木淳（あおき・じゅん）

1956年横浜市生まれ。83-90年磯崎新アトリエに勤務後、91年に青木淳建築計画事務所を設立。初期の代表作としては第8回くまもと景観賞を受賞した「馬見原橋」（1995）、日本建築学会作品賞を受賞した「潟博物館」（1997）がある。「ルイ・ヴィトン 名古屋栄店」（1999）に始まる、ファッションブランド「ルイ・ヴィトン」の一連の店舗で取り組んだ設計では、モアレの効果を利用した知性あふれる瀟洒な外装が「ルイ・ヴィトンの

顔を変えた」と言われる。

2000年に行われた青森県立美術館の設計競技で、393件の応募の中から、最優秀賞に輝いた。2004年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

●杉戸洋（すぎと・ひろし）

1970年名古屋市生まれ。3歳から14歳までニューヨークで過ごす。92年愛知県立芸術大学日本画科卒業。

98年VOCA展奨励賞受賞。ヴァンジ彫刻庭園美術館（2006）、アメリカのフォートワース近代美術館（2006）などで個展を開催。「第8回イスタンブールビエンナーレ」（2003）、「第7回光州ビエンナーレ」（2008）といった国際展に参加。近年では、原美術館「ウィンター・ガーデン：日本現代美術におけるマイクロポップ的想像力の展開」（2009）、国立国際美術館「絵画の庭」（2010）などに出品。作品は、東京都現代美術館、国立国際美術館、サンフランシスコ近代美術館など、国内外の美術館に収蔵されている。

青森県立美術館開館5周年記念

「光を描く 印象派展 — 美術館が解いた謎 —」

開催概要

会期：2011年7月9日（土）－10月10日（月・祝）（7月25日、8月22日休館）

開催日数：92日間

主催：印象派展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社、NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫）、朝日新聞社

共催：北海道テレビ放送、岩手朝日テレビ、東日本放送、秋田朝日放送、山形テレビ、福島放送、BS朝日

後援：外務省、文化庁、ドイツ連邦共和国大使館、ドイツ文化センター Goethe-Institut、在日ドイツ商工会議所、公益財団法人日独協会、青森県教育委員会、北海道教育委員会、岩手県教育委員会、秋田県教育委員会、青森県市長会、青森県町村会、青森県文化振興会議、青森県観光連盟、JR北海道、JR東日本盛岡支社、十和田観光電鉄、弘南鉄道、津軽鉄道、青い森鉄道、IGRいわて銀河鉄道、弘南バス、南部バス、下北交通、JRバス東北青森支店、秋田中央交通、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、河北新報社、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、エフエム青森

協賛：大和証券青森支店、住友化学三沢工場、丸大堀内、ハッピードラッグ、そふえ釣具、東酸

協力：三菱製紙（株）八戸工場、日本航空、ルフトハンザカーゴAG

日本側監修者：三浦篤（東京大学大学院教授）

コンサヴァター：森直義（東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科教授）

観覧料：

- ・当日券（7月9日－10月10日）
一般 1,500円、高大生 800円、小中生 無料
- ・前売券
通常販売（5月1日－7月8日）
一般 1,300円、高大生 600円
特別先行割引（3月1日－4月10日）
一般 1,000円、高大生 500円 期間限定
数量限定割引（4月1日－7月8日）
一般 1,000円、高大生 500円 100枚以上
- ・団体割引（7月9日－10月10日）
一般 1,300円、高大生 600円、小中生 無料 20名以上

※前売券（特別先行割引）は、当初3月31日までの販売であったが、東日本大震災の影響を鑑み、4月30日まで発売を延期。これにより、前売券（通常販売）の販売開始日を4月1日から5月1日へ変更。

入場者数

105,758人

関連企画

講演会

“The Wallraf. The history of a European treasure house”
（「西洋美術の宝庫－ヴァルラフ・リヒャルト美術館コレクションの歴史」）

日時：7月9日（土） 13：30－15：00

場所：縄文時遊館 縄文シアター

講師：ヴァルラフ・リヒャルト美術館／コルプー財団館長 アンドレアス・ブリューム氏

参加人員：150名

講演会「印象派－絵画を変えた画家たち」

日時：8月14日（日） 13：30－15：00

場所：アウガ AV多機能ホール

講師：東京大学総合文化研究科教授 三浦篤氏（展覧会監修者）

参加人員：100名

講演会「絵画をどう見るか－印象派の技法を中心に」

日時：9月17日（土） 13：30－15：00

場所：青森県立美術館シアター

講師：東北芸術工科大学美術史・保存修復学科教授 森直義氏（展覧会コンサヴァター）

参加人員：107名

講演会「東京富士美術館と印象派コレクション」

日時：10月1日（土） 13：30－15：00

場所：青森県立美術館シアター

講師：五木田 聡氏（東京富士美術館 館長）

参加人員：100名

親子ギャラリーツアー

日時：8月2日（火）、4日（木）、9日（火）、11日（木）、16日（火）、18日（木） 各 11：00－14：00

ポイントガイド

作品の入替を機に、9月より、週末に担当学芸員による作品解説を実施。

日時：9月3日（土）、4日（日）、10日（土）、11日（日）、18日（土）、24日（土）、25日（日）、10月1日（土）、2日（日）
各 10：00／11：00／14：00（所要10分）

ワークショップ 印象派絵画教室ーレストラン山崎のランチを
楽しみながらー

7月16日(土) 10:00ー15:00

参加人員:32名

ワークショップ 松村泰三「光の箱をつくろう」

8月20日(土) ①10:00ー12:00 ②14:00ー16:00

参加人員:55名

ワークショップ 光の三原色キットで遊ぼう

9月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝) 各13:30ー15:00

参加人員:12名

オープンアトリエ 油彩画強化週間

7月9ー15日(土一金)、9月3ー9日(土一金)

参加人員:80名

gedoneutralのオープンアトリエ

8月6ー12日(土一金) ※アーティスト滞在日 8月6日、7日

講師:gedoneutral (アーティスト)

参加人員:351名

音声ガイド

解説件数:22件

利用数:15,255台

会場外体験コーナー

一階エントランスの内外で、展覧会のキーワードである「光と色彩」にちなんだ不思議な視覚体験ができるコーナーや、展示作品の制作に用いられた風景スケッチ用の道具のレプリカなどを数カ所に設置。

ナイトミュージアム

会期最終週の10月3日から7日までの平日17時30分ー21時

開催日数:5日間

来館者数:1,513人(特別先行前売券と同額割引)

無料シャトルバス

期間:7月9日ー10月10日

運行区間:新青森駅ー県立美術館

利用人数:12,451人

カタログ

日本版(A4版 216ページ)

監修:三浦篤(東京大学大学院教授)、森直義(東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科教授)

編集:朝日新聞社 企画事業本部 文化事業部

執筆:アンドレアス・ブリューム(ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団館長)、三浦篤(東京大学大学院教授)、森直義(東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科教

授)、菅野晶(青森県立美術館学芸員)

ドイツ展図録翻訳版(A4版 136ページ)

翻訳監修:三浦篤(東京大学大学院教授)、森直義(東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科教授)

編集:朝日新聞社 企画事業本部 文化事業部

執筆:アンドレアス・ブリューム(ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団館長)、イリス・シェーファー(ヴァルラフ・リヒャルト美術館保存修復部長)、キャロライン・フォン・サン=ジョルジュ(ヴァルラフ・リヒャルト美術館保存修復部)、カティア・レヴェレンツ(修復士、修復リサーチプロジェクト「印象派とポスト印象派の絵画技術」メンバー)

翻訳:安永麻理絵(東京大学大学院)、井口俊(東京大学大学院)、齋藤達也(東京大学大学院)、鈴木真理子(三重県立美術館)

展示内容:

印象派を中心とする19世紀後半から20世紀初めに制作された作品、これらの作品のX線、赤外線、顕微鏡画像等の調査資料、当時の戸外制作用画材セットや絵の具等の実物資料、光と色彩の視覚効果を科学的に体験できる装置等。

第1章 「印象」とは何か? ー新しい絵画の誕生ー

第2章 何を使って描いたのか? ー印象派の画材ー

第3章 どこで描いたのか? ー戸外制作ー

第4章 感じたままに描いたのか?

ー理想の表現を目指してー

第5章 作品は完成していたのか? ー新しい価値観ー

第6章 作品は描かれた当時のままなのか?

ー最新の調査報告からー

出品作品数:71点

(ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団65点、公益財団法人 吉野石膏美術振興財団(山形美術館寄託)3点、埼玉県立近代美術館1点、東京富士美術館2点)

出品作家数:34名



ポスター



展示風景

ドイツ屈指の印象派・ポスト印象派コレクションを誇るケルンのヴァルラフ・リヒャルツ美術館／コルプー財団が、4年をかけて所蔵品の科学的調査を行い、その成果を通して印象派誕生の謎に迫るといふ、これまでにない斬新な手法で大きな話題を集めたヨーロッパ巡回展を日本国内で唯一開催した。開館時から県民の要望が高かった印象派を中心とした名画とともに、顕微鏡画像等の調査資料や画材等の実物資料、さらに画家たちが制作に取り入れた光と色彩の視覚効果を実際に体験できる装置等により、鮮やかな色彩や生き生きとした筆のタッチなど、印象派と彼らに続く画家たちが新しい絵画を創造する過程を解き明かす展示で、幅広い層から好評を得た。また、日本国内から6点の作品を新たに借用し、展示のいっそうの充実が実現した。

なお、本展は2011年3月11日の震災以降、一時開催が危ぶまれたが、ヴァルラフ・リヒャルツ美術館／コルプー財団との真摯な交渉の結果、さらに国内の作品借用先のご好意により、予定通り開催することができた。会期中、関連企画を含めて多数の来場者があり、展覧会開催を喜ぶ声が数多く寄せられた。

県立美術館として、この時期に青森で優れた美術作品に触れる場を提供できた意義は非常に大きかったと考えている。

出品作品

第1章 「印象」とは何か？ —新しい絵画の誕生—

1
シャルル＝フランソワ・ドービニー
花咲く果樹のある草原
1869 頃
カンヴァスに油彩
45.2×82.3
ヴァルラフ・リハルト美術館 / コルプー財団

2
カミーユ・ピサロ
モンファーコーの冬の池、雪の効果
1875
カンヴァスに油彩
114.3×109.9
公益財団法人 吉野石膏美術振興財団（山形美術館寄託）

3
カミーユ・ピサロ
ロンドンのキューガーデン、大温室前の散歩道
1892
カンヴァスに油彩
54.0×65.0
公益財団法人 吉野石膏美術振興財団（山形美術館寄託）

4
アルフレッド・シスレー
マントからショワジール＝ロワへの道
1872
カンヴァスに油彩
46.0×56.0
公益財団法人 吉野石膏美術振興財団（山形美術館寄託）

5
クロード・モネ
ジヴェルニーの積みわら、夕日
1888 — 1889
カンヴァスに油彩
65.0×92.0
埼玉県立近代美術館
※展示期間 2011年7月9日—9月11日

6
クロード・モネ
睡蓮
1908
カンヴァスに油彩
101.0×90.0
東京富士美術館
※展示期間 2011年7月9日—8月28日

7
アルマン・ギヨマン
ルーヴシエンヌの風景
1872 頃
カンヴァスに油彩
56.0×46.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

8
ギュスターヴ・カイユボット
コロンの丘
1884
カンヴァスに油彩
60.2×73.3
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

9
クロード＝エミール・シュフネッケル
パリのノートルダム（雪のノートルダム）
1889
カンヴァスに油彩
73.6×54.2
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

10
マクシミリアン・リュス
ノートルダム、サン＝ミッシェル川岸からの眺め
1901 — 1904
カンヴァスに油彩
100.0×118.7
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

11
マクシム・モフラ
風景、雪の効果
1890
カンヴァスに油彩
55.2×100.4
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

12
ポール・シニャック
カーポ・ディ・ノーリ
1898
カンヴァスに油彩
93.5×75.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

13
アンリ・マティス
コルシカ島、昔の風車（アジャクシオの風車と中庭 I）
1898
カンヴァスに油彩
38.2×46.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

第2章 何を使って描いたのか？ —印象派の画材—

14
ギュスターヴ・クールベ
海岸
1865
カンヴァスに油彩
54.0×64.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

15
アルフレッド・シスレー
ハンプトン・コート橋
1874
カンヴァスに油彩
45.5×61.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

16
フレデリック・バジール
ブドウ畑の若い女性
1869
板紙に油彩
27.0×34.9
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

17
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
セーヌ川の風景、リュエル
1879
板（ポプラ）に油彩
38.0×66.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

18
ギュスターヴ・カイユボット
ジェンヌヴィリエの平野、黄色い野原
1884
カンヴァスに油彩
54.5×65.4
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

19
ギュスターヴ・カイユボット
アルジャントゥイユのレガッタ
1893
カンヴァスに油彩
65.3×54.5
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

第3章 どこで描いたのか？ —戸外制作—

20
ギュスターヴ・クールベ
シヨン城
1873
カンヴァスに油彩
54.1×65.3
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

21
ウージェーヌ・ブーダン
トゥルーヴィルの浜辺
1894
カンヴァスに油彩
50.5×74.3
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

22
アルフレッド・シスレー
森の周辺、サブロン
1884 — 85 頃
カンヴァスに油彩
54.5×65.5
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

23
アルフレッド・シスレー
ラングランド湾
1897
カンヴァスに油彩
54.0×65.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

24
クロード・モネ
アニエールのセーヌ川
1873
カンヴァスに油彩
54.2×72.5
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

25
クロード・モネ
エトルタ海岸の漁船
1883 — 84 頃
カンヴァスに油彩
73.5×100.5
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

26
アルマン・ギヨマン
サン＝パレの海
1892
カンヴァスに油彩
60.0×93.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

27
アルマン・ギヨマン
ボメットの岬の岩礁
1893
カンヴァスに油彩
33.0×46.0
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

28
ギュスターヴ・カイユボット
トゥルーヴィルの庭
1882
カンヴァスに油彩
27.5×35.5
ヴァルラフ・リハルト美術館/コルプー財団

29
ギュスターヴ・カイユボット
セーヌ川の支流、秋の気配
1890
カンヴァスに油彩
65.0×54.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

30
ギュスターヴ・カイユボット
セーヌ川岸
1891
カンヴァスに油彩
45.7×60.8
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

31
ギュスターヴ・カイユボット
セーヌ河畔の洗濯物
1892 頃
カンヴァスに油彩
105.5×150.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

32
ジョルジュ・スーラ
バルビゾン風景とがっしりした人物
1882 頃
板(ボブラ)に油彩
15.5×24.8
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

33
アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック
漁船
1880
板(ボブラ)に油彩
14.0×23.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

第4章 感じたままに描いたのか？ —理想の表現を目指して—

34
カミーユ・ピサロ
ポントワーズのエルミタージュ
1867
カンヴァスに油彩
91.0×150.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

35
カミーユ・ピサロ
ヴァランジュヴィルの果樹園
1899
カンヴァスに油彩
47.0×56.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

36
エドゥアール・マネ
アスバラガス、静物
1880
カンヴァスに油彩
46.5×55.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

37
ベルト・モリゾ
タチアオイの中に立つ子供
1881
カンヴァスに油彩
50.5×42.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

38
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
縫い物をするジャン・ルノワール
1900
カンヴァスに油彩
55.5×46.4
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

39
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
ヴィルヌーヴ＝レ＝ザヴィニョン
1901
カンヴァスに油彩
33.0×53.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

40
メアリー・カサット
黒っぽいボンネットをかぶったサラ
1901
カンヴァスに油彩
67.2×56.2
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

41
アルベール・デュボワ＝ピエ
レセップス埠頭、ルーアン
1887 頃
カンヴァスに油彩
32.0×46.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

42
ギュスターヴ・カイユボット
セーヌ川岸の船と小屋
1891
カンヴァスに油彩
46.0×55.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

43
ポール・ゴーギャン
ブルターニュの少年
1889
カンヴァスに油彩
93.0×74.2
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

44
フィンセント・ファン・ゴッホ
クリシーの橋
1887
カンヴァスに油彩
55.0×46.3
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

45
イボリット・プティジャン
橋
1890 頃
カンヴァスに油彩
65.7×100.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

46
アンリ＝エドモン・クロス
プロヴァンスの風景
1898
カンヴァスに油彩
60.3×81.2
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

47
アシール・ロジェ
ハリエニシダの咲く小道
1900 頃
カンヴァスにワックスと油彩
53.9×72.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

48
テオ・ファン・レイセルベルヘ
グリ＝ネ岬
1900
カンヴァスに油彩
65.5×81.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

49
テオ・ファン・レイセルベルヘ
ル・ラヴァンドゥー、ヴァール県
1908
厚紙に油彩
37.8×55.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

50
ポール・シニャック
コンカルノーの港
1933
カンヴァスに油彩
53.0×73.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

51
アルベール・マルケ
バリ郊外
1899
厚紙に油彩
23.8×31.3
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

第5章 作品は完成していたのか？ —新しい価値観—

52
ウィリアム・アドルフ・ブーグロー
漁師の娘
1872
カンヴァスに油彩
116.0×87.5
東京富士美術館

53
カミーユ・ピサロ
ポントワーズの果樹園、夕暮れ
1878
カンヴァスに油彩
46.7×55.2
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

54
ポール・セザンヌ
エクス＝アン＝プロヴァンス近郊の風景
1879 頃
カンヴァスに油彩
46.2×55.3
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

55
ポール・セザンヌ
エクス＝アン＝プロヴァンスの西の風景
1885—88
カンヴァスに油彩
65.3×81.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

56
ベルト・モリゾ
セーヌ川の舟
1879—80 頃
カンヴァスに油彩
25.5×50.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

57
ベルト・モリゾ
ニースの港
1881—82
カンヴァスに油彩
41.0×55.0
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

58
ピエール＝オーギュスト・ルノワール
赤い服の女
1892 頃
カンヴァスに油彩
65.4×54.5
東京富士美術館
※展示期間 2011年9月1日—10月10日

59
アルベール・ベナール
カレーの公園の草地
1890
カンヴァスに油彩
100.5×81.5
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

第6章 作品は描かれた当時のままなのか？ —最新の調査報告から—

60
カミーユ・ピサロ
バザンクールの農場
1884
カンヴァスに油彩
54.1×65.1
ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団

61	エドゥアール・マネ ベルクの黒い舟 1873 厚紙に油彩 20.3×33.2 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団	69	ジャン・メッツァンジェ 木のある風景 1906 頃 板紙に油彩 22.0×27.5 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団
62	ポール・ゴーギャン セーヌ川のグルネル橋 1875 板（マホガニー）に油彩 30.6×45.7 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団	70	クロード・モネの贋作 ポール＝ヴィレのセーヌ川の川岸 カンヴァスに油彩 67.0×82.5 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団
63	アルフレッド・ウィリアム・フィンチ 北海沿岸の村 1889 頃 カンヴァスに油彩 57.8×71.3 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団	71	エドゥアール・マネ（?） 若い女性の肖像（ヴィクトリーヌ・ムーラン?） 1868 頃 カンヴァスに油彩 40.5×32.4 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団
64	アンリ＝エドモン・クロス 海の日没 1896 カンヴァスに油彩 54.3×61.5 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団		
65	マクシミリアン・リュス サン＝トロベ 1892 板紙に油彩 26.0×39.8 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団		
66	レオ・ゴッソン ラニー＝シュル＝マルヌのエチューヴ通り 1885 頃 板（ポプラ）に油彩 42.0×36.2 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団		
67	ポール・シニャック サン＝トロベ、静寂 1895 板（ポプラ）に油彩 18.5×27.2 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団		
68	ポール・シニャック サモワ、習作第 8 番 1899 板紙に油彩 27.1×34.7 ヴァルラフ・リヒャルト美術館/コルプー財団		

掲載記事

朝日新聞

2011年6月10日(金)
印象派の謎を解く展覧会 来月9日から県立美術館

2011年6月21日(火)
震災乗り越えた「美」 青森県立美術館 来月から「印象派展」

2011年6月29日(水)
「印象派展」前に高校で出前講座 県立美術館職員

2011年7月5日(火)
「謎—印象派展」国内・ドイツから作品

2011年7月6日(水)
「光を描く 印象派展」青森県立美術館開館5周年記念 科学の目 名画に迫る

2011年7月8日(金)
「謎—印象派展」あす開幕 特製の装置「光」を演出

2011年7月9日(土)
「謎—印象派展」印象派展、きょう開幕 県立美術館 一足先に100人鑑賞

2011年7月9日(土)
「謎—印象派展」印象派展 県立美術館で開幕 開館前から列 感嘆の声

2011年7月17日(日)
「Voice 声」東北で「文化の薫り」に触れて

2011年7月20日(水)
印象派展 X線・顕微鏡で名画を解明

2011年7月23日(土)
印象派展観客数1万人を超える

2011年7月28日(木)
皇太子さまが印象派展見学 県立美術館

2011年8月11日(木)～2011年8月21日(日)
「謎—印象派展」1—8

2011年9月2日(金)
「謎—印象派展」残り39日 「赤い服の女」際だつ違い 隣は古典派「漁師の娘」

2011年9月3日(土)
「謎—印象派展」残り38日 「赤い服の女」題材にトーク

2011年9月4日(日)
「謎—印象派展」残り37日 作品の背景を学芸員が解説

2011年9月5日(月)
「謎—印象派展」残り36日

2011年9月6日(火)
「謎—印象派展」残り35日

2011年9月7日(水)
「謎—印象派展」残り34日 入場者5万人に

2011年9月7日(水)
「青森・印象派展」光の七変化 装置で体験

2011年9月8日(木)
「謎—印象派展」残り33日 シールド片手に創作秘話いかが

2011年9月9日(金)
「謎—印象派展」残り32日 そっくりりびっくりあおり犬ドッグ

2011年9月10日(土)
「謎—印象派展」残り31日 「南側にも注目」クイズラリー

2011年9月11日(日)
「謎—印象派展」残り30日

2011年9月12日(月)
「謎—印象派展」残り29日

2011年9月13日(火)
「謎—印象派展」残り28日

2011年9月14日(水)
「謎—印象派展」残り27日

2011年9月15日(木)
「謎—印象派展」残り26日 入場者6万人に

2011年9月16日(金)
「謎—印象派展」残り25日 招待券プレゼント

2011年9月17日(土)
「謎—印象派展」残り24日 八代亜紀さんが訪問 繊細な作品を楽しむ

2011年9月18日(日)
「謎—印象派展」残り23日

2011年9月19日(土)
「謎—印象派展」残り22日

2011年9月20日(火)
「謎—印象派展」残り21日

2011年9月21日(水)
「謎—印象派展」残り20日

2011年9月22日(木)
「謎—印象派展」残り19日

2011年9月23日(金)
「謎—印象派展」残り18日 来場者7万人突破

2011年9月24日(土)
「謎—印象派展」残り17日 きょう・あす作品解説

2011年9月25日(日)
「謎—印象派展」残り16日

2011年9月26日(月)
「謎—印象派展」残り15日

2011年9月27日(火)
「謎—印象派展」残り14日

2011年9月28日(水)
「謎—印象派展」残り13日

2011年9月29日(木)
「謎—印象派展」残り12日

2011年9月30日(金)
「謎—印象派展」残り11日

2011年10月1日(土)
「謎—印象派展」残り10日

2011年10月2日(日)
「謎—印象派展」残り9日 あすから夜開館

2011年10月3日(月)
「謎—印象派展」残り8日 作品も人も20度が快適

2011年10月4日(火)
「謎—印象派展」残り7日 夜の美術館楽しめます

2011年10月5日(水)
「謎—印象派展」残り6日 来場者9万人目は鯨ヶ沢の重田さん

2011年10月6日(木)
「謎—印象派展」残り5日 専門的な図録売れ行き上々

2011年10月7日(金)
「謎—印象派展」残り4日

2011年10月8日(土)
「謎—印象派展」残り3日 夜の芸術を1500人が堪能

2011年10月9日(日)
「謎—印象派展」残り2日

2011年10月10日(月)
「謎—印象派展」きょうまで 青森の中学生が来場10万人目に

2011年10月12日(火)
「謎—印象派展」にぎやかに閉幕 10万5800人が来場

2011年12月29日(木)
県立美術館・印象派展 震災乗り越えた展示

東奥日報

2011年6月2日(木)
県美「印象派展」出前講座を開催 受講団体募集

2011年6月10日(金)
創作の秘密を紹介 県立美術館「印象派展」開館5周年記念 来月開幕

2011年6月15日(水)
「印象派展」県立美術館で来月開幕 名画の秘密に興味津々 弘前実業高で出前講座

2011年6月21日(火)
準備状況を最終確認 県美「印象派展」実行委が会合

2011年7月5日(火)
「光を描く 印象派展」開幕間近 準備進む 巨匠の絵画、入念点検 県立美術館

2011年7月9日(土)
「光を描く 印象派展」 「妙技素晴らしい」 内覧会で関係者ら感嘆

2011年7月9日(土)
「光を描く 印象派展」 ゴッホ、モネ…名作ずらり 県立美術館きょう開幕

2011年7月10日(日)
「光を描く 印象派展」名画に感動、新発見 開幕から観覧者続々 県立美術館

2011年7月11日(月)
「光を描く 印象派展」 「素晴らしい、感激」 県立美術館 黒柳徹子さん鑑賞

2011年7月12日(火)
入館者200万人突破 県立美術館 開館から5年で

2011年7月12日(火)
「明鏡」 印象派展見て幸福感に浸る

2011年7月14日(木)
「光を描く 印象派展」 研究の成果 確かめて プリウム館長(ドイツ)が講演

2011年7月14日(木)
開館5年「おめでとう」 県立美術館 園児ら “誕生日” 祝う

2011年7月17日(日)
「光を描く 印象派展」 入場者5千人に

2011年7月19日(火)～2011年9月20日(火)
「光を描く 印象派展」1～14 県立美術館 開館5周年記念

2011年7月20日(水)
明鏡「印象派展」会場周辺の手入れを

2011年7月23日(土)
「光を描く 印象派展」 入場1万人に

2011年7月28日(木)
「北東北総体」 皇太子さま 笑顔の交流 来県、福祉施設など訪問

2011年8月9日(火)
「光を描く 印象派展」 入場2万人に

2011年8月12日(金)
「光を描く 印象派展」 絵画変えた画家たち
14日・アウガで講演会

2011年8月15日(月)
「光を描く 印象派展」 入場3万人超す

2011年8月27日(土)
「光を描く 印象派展」 入場者4万人に

2011年8月31日(水)
「東奥春秋」 AKBでふしぎ発見!

2011年9月1日(木)
「光を描く 印象派展」 創作の秘密に驚き、
笑顔

2011年9月2日(金)
「光を描く 印象派展」 透き通るような肌
繊細に ルノワール成熟期作品「赤い服の
女」登場

2011年9月2日(金)
「天地人」

2011年9月7日(水)
「光を描く 印象派展」 入場者万人に

2011年9月13日(火)
「トレンドあおもり」 作品とコラボ。オリ
ジナルグッズ… 美術館ショップが人気
おしゃれ雑貨や土産も

2011年9月15日(木)
「光を描く 印象派展」 入場者6万人に

2011年9月17日(土)
代表作70点ずらり「八代亜紀展きょう開幕」
巨匠の名画に感銘 印象派展鑑賞 県立美
術館

2011年9月23日(金)
「光を描く 印象派展」 入場者7万人突破

2011年9月26日(月)～2011年10月1日(土)
「印象派の画家たち」 1～6

2011年9月29日(木)
「光を描く 印象派展」 入場者8万人に

2011年10月4日(火)
「光を描く 印象派展」 仕事帰り気軽に鑑賞
ナイトミュージアム始まる 県立美術館

2011年10月5日(水)
「光を描く 印象派展」 入場者9万人に

2011年10月10日(月)
「光を描く 印象派展」 入場10万人 きょう
開幕

2011年10月10日(月)
画家の「生きる力」見て 「印象派展」最終
日に寄せて

2011年10月16日(月)
「光を描く 印象派展」 巨匠の作品に長い列
10万5千人堪能し閉幕

陸奥新報

2011年6月19日(日)
印象派誕生の謎に迫る 来月9日から県美
で展覧会 最新技術駆使一独の研究成果公
開

2011年7月12日(火)
「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」
を見て 印象派の魅力に触れる

2011年7月28日(木)
皇太子さま来青 障害者施設や県美訪問

デーリー東北

2011年6月9日(木)
青森県立美術館「光を描く 印象派展」ルノ
ワール、モネ、ゴッホ…巨匠の秘密 科学で
解明

河北新報

2011年7月20日(水)
印象派誕生を謎解き 青森県立美術館で企
画展

今和次郎 採集講義 展

開催概要

会期：2011年10月29日（土）－12月11日（日）

開催日数：42日間

主催：今和次郎展実行委員会（青森県立美術館、青森放送株式会社、社団法人青森県観光連盟、青森公立大学 国際芸術センター青森、社団法人青森県建築士会 青森支部）、読売新聞社、美術館連絡協議会

特別協力：工学院大学図書館

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

後援：社団法人日本建築学会、社団法人日本建築家協会、社団法人全日本建築士会、青森県統計協会

協力：パナソニック 汐留ミュージアム、青森オフセット印刷株式会社

観覧料：

一般 1,000 (800) 円、高大生 600 (450) 円、小中生 200 (160) 円

※() 内は20名以上の団体料金

※小・中・特別支援学校の児童生徒及び引率者が、学校教育活動として観覧する場合は無料。

監修：荻原正三（工学院大学名誉教授）、黒石いずみ（青山学院大学総合文化政策学部教授）

服飾立体模型監修：先川直子（目白大学短期大学部生活科学科教授）

工学院大学図書館今和次郎コレクション：荻原正三（工学院大学名誉教授）、大町知之（荻原正三研究室）

会場デザイン：西澤徹夫

アートディレクター：菊地敦己

CM制作：須藤千春

入場者数

4,807人

関連企画

朗読会＋スライド上映会「今和次郎 ことばとまなざし」

日時：10月12日（水）、19日（水）、26日（水） 各日18:00－19:00

場所：ギャラリー NOVITA

出演：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

ワークショップ「考現学ごっこしよう！」

日時：10月22日（土）13:30－17:00、23日（日）13:30－17:00

場所：22日ギャラリーNOVITA、23日弘前市まちなか情報センター

トークセッション「今和次郎・考現学の愉しみかた」

日時：10月23日（日）10:00－12:00

場所：弘前中央高校講堂

講師：南伸坊（路上観察学会員）、中村好文（建築家）

関連映画上映会

『農村住宅改善』（野田真吉監督作品 / 1941年 / 20分）

『帝都物語』（実相寺昭雄監督作品 / 1988年 / 135分）

日時：11月27日（日）14:00－16:45

日時：12月10日（土）、11日（日） ※『農村住宅改善』のみ
各日10:30－10:50 / 14:00－14:20

場所：青森県立美術館シアター

関連展覧会

青森公立大学 国際芸術センター青森

「再考現学 / Re-Modernologio phase2: 観察術と記譜法」

会期：2011年10月23日（日）－12月18日（日）

青森県立郷土館

「今純三と考現学展」

会期：2011年10月28日（金）－11月27日（日）

展覧会カタログ

『今和次郎 採集講義』

著者：今和次郎

編集：畑中章宏 / 森かおる（青幻舎）

ブックデザイン：菊地敦己

判型：A5判・288頁

発行：株式会社青幻舎



ポスター



展示風景

青森県弘前市に生まれた今和次郎（1888－1973）は、昭和初期の急速に大都市化していく東京の街の様子や人々の生活の変化を採集（観察し、記録する）・分析した「考現学（こうげんがく）」の創始者として知られるとともに、民俗学者の柳田國男らがつくった民家研究の会「白茅会（はくぼうかい）」の活動に参加したことをきっかけにはじめた民家研究の分野でも重要な足跡を残している。

一方、関東大震災直後の街頭に出て、急ごしらえのバラック建築をペンキで装飾した「バラック装飾社」の活動や積雪地方の暮らしを快適にするための試み、村の共同作業場の設計などに携わった建築家・デザイナーでもあった。さらに戦後になると、「生活学」や「服装研究」といった新しい学問領域も開拓していった。

本展は今和次郎研究に功績のある研究者の学術協力を得ながら、当館とパナソニック 汐留ミュージアム（会期：2012年1月14日－3月25日）が共同で企画開催した展覧会であり、工学院大学図書館の今和次郎コレクションに所蔵される膨大かつ多

彩な資料の中から、スケッチ、写真、建築・デザイン図面等を展示する他、本展のために制作された模型や再現映像など約300点をとおして今和次郎のユニークな活動を紹介する初の本格的な回顧展として企画されたものである。

今和次郎は「考現学」「民家研究」等の活動については、これまでも数多くの展覧会で取り上げられてきたが、今和次郎の活動の全貌を紹介する展覧会は初めてであり、その多岐にわたる活動を俯瞰的にとらえた点で意義のある展覧会となったと考えている。また、今回の展覧会準備の際に、これまで知られていなかった青森での仕事（竹浪邸設計等）が探り出されたことは、今回の展覧会の大きな成果であった。

なお、国立民族学博物館（大阪）において、本展の資料に国立民族学博物館所蔵の関連資料を加えた「今和次郎 採集講義－考現学の今」展が開催された（2012年4月26日－6月19日）。

出品作品

●セクション1

農村調査、民家研究の仕事

○民家との出会い

1-1
柳田國男
柳田國男からのはがき「大正6年3月18日
東京府下北多摩郡国分寺村調査 集合案内」
1917
インク / はがき
14.0×9.0
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-2
柳田國男
1949 頃
プリント
成城大学民俗学研究所

1-3-①
白茅会
『民家図集第1集・埼玉県』表紙
1918
出版物（発行：洪洋社）
37.7×28.2
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-3-②
白茅会
『民家図集第1集・埼玉県』地図
1918
出版物（発行：洪洋社）
26.3×36.3
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-3-③
今和次郎
『民家図集第1集・埼玉県』「埼玉県北足立
郡大石村大字小泉 河原塚菊三郎宅 1 平
面及外観」
1918
出版物（発行：洪洋社）
36.3×26.3
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-4
今和次郎
「埼玉県北足立郡大石村大字小泉 河原塚菊
三郎宅」調査スケッチ
1917
鉛筆、インク / 紙
16.0×20.3
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-5
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「東京から汽車の中で」
1917
鉛筆、インク / 紙
各 20.6×16.0
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-6
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「長野県下高井郡中野町東松
川 横田安自氏宅 正面・側面・断面」
1917
インク、水彩 / トレーシングペーパー、紙
17.8×21.5
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-7
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「長野県下高井郡中野町東松
川 横田安自氏宅 断面・格子まわり詳細」
1917
インク、水彩 / トレーシングペーパー、紙
17.8×21.5
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-8
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「長野県下高井郡中野町東松
川 横田安自氏宅 平面と敷地」
1917
17.8×21.5
インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-9
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
「新潟県中頸城郡関川村 雪に埋れる山の村
の家」
1917
14.0×18.7
インク、水彩 / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-10
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「新潟県高田市中 がんぎの
ある町屋」
1917
17.8×21.5
インク、水彩 / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-11
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「長野県北安曇郡南小谷村千
国 栗田直吉氏宅 外観と平面」
1917
17.8×21.0
インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-12
今和次郎
信州北部、越後南部旅行（信濃越後地方民家）
調査スケッチ「長野県北安曇郡南小谷村千
国 栗田直吉氏宅 火だな」
1917
17.8×21.5
インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-13
今和次郎
群馬県勢多郡横野町調査スケッチ「利根上
流の村の家」
1917
16.0×21.0
鉛筆、インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-14
今和次郎
群馬県勢多郡調査スケッチ「袖ガキの棧と
道具」
1928
20.5×31.5
鉛筆、インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-15
今和次郎
群馬県勢多郡調査スケッチ「Zaguri（ざぐ
り）」
1928
15.5×20.3
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-16
今和次郎
神奈川県津久井郡内郷村調査スケッチ「吉
野駅ヨリ与瀬へ 途中、国道ヨリ」
1918
16.0×20.3
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-17
今和次郎
神奈川県津久井郡内郷村調査スケッチ「民
家とその周囲 植木、洗場、井戸、便所、
肥料溜、門、道具置き」※鈴木氏スケッチに
基づく
1918
31.0×20.7
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-18
今和次郎
神奈川県津久井郡内郷村調査スケッチ「墓
地」
1918
16.0×20.5
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-19
今和次郎
神奈川県津久井郡内郷村調査スケッチ「一
農家の所有地全景」
1918
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-20
今和次郎
伊豆大島調査スケッチ「民家」
1919
16.0×20.3
鉛筆、インク、水彩 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-21
今和次郎
伊豆大島調査スケッチ「天水タンクと牛」
1919
20.3×14.8
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-22
今和次郎
伊豆大島調査スケッチ「伊豆大島の民家」
1919
20.3×16.0
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-23
今和次郎
青森県北津軽郡板柳町「陸奥北津軽郡の農
家（林檎のなる土地の家）」
1920
11.0×17.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-24
撮影：今和次郎
青森県調査写真「青森、津軽地方 風俗」
1920
19.0×14.3（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-25
撮影：今和次郎
青森県調査写真「青森市 風俗」
1920
19.0×14.3（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-26
撮影：今和次郎
青森県調査写真「北津軽郡 村落風景」
1920
19.0×14.3（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-27 撮影：今和次郎 青森県調査写真「青森、北津軽郡」 1920 19.0×14.3（台紙サイズ） プリント（オリジナルプリント） 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-35 今和次郎 埼玉県秩父郡浦山村調査スケッチ「浦山村 附近山間地炭焼ガマ、生育植物他」 1922 20.5×16.0 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-43 撮影：今和次郎 青森県北津軽郡七和村持子沢区・高野区郷 蔵 調査写真 1935 各 10.9×7.7 プリント 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-47 制作：青山学院大学黒石研究室 山形県新庄市鳥越の恩賜郷舎とその周辺 景観模型 1:500 2011 新規制作 H12.0×W84.1×D118.9 ミクストメディア
1-28 今和次郎 『日本の民家』 1922 19.0×13.0 発行：鈴木書店 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-36 今和次郎 東京府下西多摩郡檜原村調査スケッチ「檜 原村数馬の民家 外観」 1922 20.5×16.0 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-44 今純三 青森県北津軽郡七和村大字持子沢区・高野 区郷舎スケッチ 1935 19.2×13.7 石版／紙	1-48 金和彦 映像「柏木山地区の郷舎と記憶」 2011 年新規制作
1-29 民家採集の足跡（訪問した民家と年代の日 本地図） 2011 新規制作 地図協力：小学生の学習教材【ちびむすド リル】 http://kotoba.littlestar.jp/	1-37 今和次郎 東京府下西多摩郡檜原村調査スケッチ「武 蔵西多摩郡の山人足の小屋」 1923 15.5×20.5 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-45 今和次郎 恩賜郷舎建築工事設計図甲号 1:20、1:100 1935 51.5×71.7 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-49 今和次郎 群馬県利根郡糸ノ瀬村貝野瀬調査スケッチ 「糸ノ瀬村の養蚕家屋（林辰造氏宅）立面図」 1936 20.8×28.5 鉛筆、インク、水彩／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
○民家と暮らし			1-50 今和次郎 群馬県利根郡糸ノ瀬村調査スケッチ「糸ノ 瀬村の養蚕家屋（林辰造氏宅）立面図」 1936 20.8×28.5 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
1-30 今和次郎 愛知県知多郡日間賀島村調査スケッチ「尾 張・日間賀島の漁師の家」 1922 15.3×20.5 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-38 撮影：今和次郎 東京府下西多摩郡檜原村調査写真 1923 27.0×19.0（台紙サイズ） プリント（オリジナルプリント） 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-46-① 制作：青山学院大学黒石研究室 今和次郎標準設計による恩賜郷舎（山形県 新庄市鳥越）模型 1:30 2011 新規制作 H21.0×W29.7×D42.0 ミクストメディア	1-51 今和次郎 群馬県利根郡糸ノ瀬村調査スケッチ「糸ノ 瀬村の養蚕家屋（林辰造氏宅）平面図」 1936 20.8×28.5 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
1-31 今和次郎 愛知県知多郡日間賀島村調査スケッチ「尾 張・日間賀島の漁家 広場の一隅」 1922 20.5×16.0 鉛筆、インク、水彩／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-39 今和次郎 徳島県美馬郡西祖谷村調査スケッチ「西祖 谷村の民家」 1920 12.8×19.6 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-46-② 制作：青山学院大学黒石研究室 今和次郎標準設計による恩賜郷舎（山形県 新庄市角沢）模型 1:30 2011 年新規制作 H21.0×W29.7×D42.0 ミクストメディア	○朝鮮半島の民家を訪ねて
1-32 今和次郎 愛知県知多郡日間賀島村漁家調査スケッチ 「無住寺を復活したもの」 1922 20.3×16.2 鉛筆、インク、水彩／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-40 今和次郎 徳島県美馬郡西祖谷村調査スケッチ「西祖 谷村の民家」 1934 21.5×29.0 インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-46-③ 制作：青山学院大学黒石研究室 今和次郎標準設計による恩賜郷舎（山形県 新庄市金沢）模型 1:30 2011 新規制作 H22.0×W59.4×D42.0 ミクストメディア	1-52 今和次郎 『朝鮮部落調査特別報告 第一冊』 1924 19.0×26.3 出版物（発行：朝鮮総督府） 工学院大学図書館今和次郎コレクション
1-33 今和次郎 愛知県知多郡日間賀島村漁家調査スケッチ 「尾張・日間賀島の鹽の石垣」 1922 20.5×16.0 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-41 制作：今和次郎、竹内芳太郎 徳島県の民家（徳島県美馬郡祖谷村） 模型 1934 H26.0×W75.2×D74.3 ミクストメディア 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-46-④ 制作：青山学院大学黒石研究室 今和次郎標準設計による恩賜郷舎（山形県 最上郡金山町）模型 1:30 2011 年新規制作 H15.0×W29.7×D42.0 ミクストメディア	1-53 今和次郎 朝鮮半島調査スケッチ「京城の田舎の宿屋」 1922 20.5×15.0 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
1-34 今和次郎 埼玉県秩父郡浦山村調査スケッチ「冠岩 掛小舎内部」 1922 31.5×20.3 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-42 今和次郎 青森県北津軽郡七和村高野区郷蔵調査ス ケッチ「平面図、立面図、断面図」 1935 21.5×29.0 鉛筆／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	1-46-⑤ 制作：青山学院大学黒石研究室 今和次郎標準設計による恩賜郷舎（岩手県 北上市更木）模型 1:30 2011 年新規制作 H24.0×W84.0×D29.7 ミクストメディア	1-54 今和次郎 朝鮮半島調査スケッチ「開城付近の民家（都 邑の場末の家）」 1922 16.0×20.5 鉛筆、インク／紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-55
今和次郎
朝鮮半島調査スケッチ「朝鮮北部（咸興）の民家の室内」
1922
16.0×20.5
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-56
今和次郎
朝鮮半島調査スケッチ「咸興・高地の校倉造り民家」
1922
16.0×20.5
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-57
撮影：今和次郎
朝鮮半島調査写真「開城の丘陵に建てられた民家」
1922
19.5×15.0
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○路傍採集

1-58
今和次郎
炭俵の垣根
1926
10.0×25.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-59
今和次郎
自在鉤
1917-1928
23.0×15.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-60
今和次郎
漁家の窓
1922
24.0×15.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-61-①
今和次郎
木曾・野尻の雨樋
1925
13.5×14.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-61-②
今和次郎
木曾・日出塩の雨樋
1925
10.0×9.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-62
今和次郎
甲州南巨摩郡西山村 便所
1926
19.0×11.0
鉛筆、インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-63
今和次郎
石の小祠堂
1922
12.0×18.0
鉛筆、インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-64
今和次郎
配列された植木鉢
1922
12.5×14.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-65
今和次郎
漁村の物干竿
1926
11.0×14.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-66-①
今和次郎
石油かんのお灯明
1922
15.0×10.5
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-66-②
今和次郎
岸壁ランプ
1926
22.5×17.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-67
今和次郎
火の目のいろいろ
1925-1926
17.0×23.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

1-68
今和次郎
新盆のお飾り
1924
22.9×17.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○トピック展示 今純三

1-69
今純三
「風景（雪景）」
1935
13.1×19.9
エッチング、アクアチント / 紙
青森県立美術館

1-70
今純三
「市日」
1936
24.2×34.2
エッチング / 紙
青森県立美術館

1-71
今純三
「奥入瀬渓流（獅子岩附近）」
1937
23.5×34.4
エッチング / 紙
青森県立美術館

●セクション2

関東大震災—都市の崩壊と再生、そして考現学の誕生

○震災バラック調査

2-1
撮影：今和次郎
震災バラック調査写真
「二重橋外および上野公園」
1923
27.2×19.0（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-2
撮影：今和次郎
震災バラック調査写真（詳細不明）
1923
27.2×19.0（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-3
撮影：今和次郎
震災バラック調査写真「芝 愛宕下附近」
1923
27.2×19.0（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-4
撮影：今和次郎
震災バラック調査写真「上野東坂附近」
1923
27.2×19.0（台紙サイズ）
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-5
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「土ムロのような家」
1923
13.1×19.4
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-6
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「土管を利用した小屋」
1923
13.5×19.5
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-7
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「塔婆の小屋」
1923
13.5×19.5
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-8
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「屋根模様のバラック」
1923
18.3×12.1
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-9
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「商店バラック」
1923
18.3×12.1
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-10
今和次郎
震災バラック調査スケッチ「店の出し方の一例」
1923
12.2×18.3
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○バラック装飾社の活動

2-11-①
バラック装飾社
バラック装飾社 作業場看板
1923
7.6×10.5
プリント（オリジナルプリント）
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-11-②
バラック装飾社
バラック装飾社 案内状
1923
印刷物
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-12 アサヒグラフ バラック装飾社紹介記事「復興途上の帝都」 (アサヒグラフ 1923年11月14日号) 写真パネル 朝日新聞社	2-20 アサヒグラフ 「東京の復興 美しいバラックが立ち並んだ 目抜の大通り」(『アサヒグラフ』1924年4 月2日号) 1924 印刷物 朝日新聞社	2-21-⑧ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 18 靴の (1)」 1925 13.7×19.8 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑩ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 47 女の スカートの長さ」 1925 8.4×8.7 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-13 バラック装飾社 開新食堂 (外観及び装飾) 1923 27.2×18.8 (台紙サイズ) プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-① 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「統計図索引」 1925 22.0×17.6 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑨ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 20 男の 着物」 1925 8.0×16.3 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑪ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 50 女の 靴下」 1925 9.1×13.7 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-14 バラック装飾社 開新食堂 (内観) 1923 27.2×18.8 (台紙サイズ) プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-② 制作: CHONO 『東京銀座街風俗記録』より「統計図索引」 立体模型 2011年新規制作 H163、H149 ミクストメディア	2-21-⑩ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 22 男の 履物」 1925 9.8×18.8 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑫ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 51 女の靴」 1925 8.3×13.6 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-15 バラック装飾社 東條書店 (外観および装飾) 1923 27.2×18.8 (台紙サイズ) プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-③ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 5 東側と 西側との人出の比較」 1925 23.0×17.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑪ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 24 髷」 1925 10.0×19.1 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑬ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 56 化粧」 1925 8.5×17.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-16 バラック装飾社 堀商店 (外観) 1923 27.2×18.8 (台紙サイズ) プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-④ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 6 通行人 の分析」 1925 17.5×21.6 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑫ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 26 男の 帽子」 1925 13.5×17.2 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑭ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 60 女の 手提げ」 1925 10.2×19.2 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-17 バラック装飾社 カフェー・キリン (外観)『バラック建築 巻 1』より 1923 19.0×13.0 出版物 (発行: 洪洋社) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑤ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 12 外套」 1925 13.7×13.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑬ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 29 タバコ」 1925 10.7×14.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-22 今和次郎、吉田謙吉 「銀座一帯飲食店分布状態」 1929 27.2×39.7 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-18 バラック装飾社 カフェー・キリン (内観)『バラック建築 巻 1』より 1923 19.0×13.0 出版物 (発行: 洪洋社) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑥ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 14 カラー」 1925 9.7×19.4 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑭ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 30 女の 着物」 1925 9.2×18.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-23 今和次郎、吉田謙吉 「銀座のカフェー服装採集 1・2」(『アサヒ グラフ』1926年11月号) 1926 各 32.2×24.0 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション
2-19 バラック装飾社 米国メーン商会 (看板) 1923 27.2×18.8 (台紙サイズ) プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑦ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 16 時計 の鎖」 1925 11.4×17.2 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-21-⑮ 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』より「図 30 女の 着物」 1925 9.2×18.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	2-24 今和次郎 『東京銀座街風俗記録』調査メモ紙 1925 26.5×19.5 鉛筆 / 紙、新聞切り抜き 工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-25
今和次郎
『東京銀座街風俗記録』採集カードおよび採
集図下書き
1925
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-26
今和次郎
採集スケッチノートおよびメモ帳
1925 頃
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-27
吉田謙吉
採集等に使用されていたメモ帳
1926-1928、1931-32 頃
各 16.6×10.0
個人

2-28
路上でメモをとる吉田謙吉 (写真)
1955 頃
個人

2-29
今和次郎、吉田謙吉
『モデルノロチオ (考現学)』
1930
26.0×20.0
出版物 (発行: 春陽堂)
青森県立美術館

2-30
今和次郎、吉田謙吉
『考現学採集 (モデルノロチオ)』
1931
27.0×20.0
出版物 (発行: 建設社)
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-31-①
今和次郎、村山二郎、土橋長俊
東京郊外阿佐ヶ谷駅附近商店屋並
1925
37.5×29.4
水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-31-②
今和次郎、村山二郎、土橋長俊
東京郊外阿佐ヶ谷駅附近商店屋並 (色別票)
1925
12.3×21.8
水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-32
今和次郎
『郊外風俗雑集』より「郊外の暮らし」
1925
18.1×12.0
インク / 紙

2-33
今和次郎
『郊外風俗雑集』より「途上の商人いろいろ」
1925
22.0×16.8
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-34
今和次郎
『郊外風俗雑集』より「犬」
1925
6.7×13.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-35
今和次郎
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「本所
深川の店にみられる品物と値段 (1)」
1925
24.0×18.1
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-36
今和次郎
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「本所
深川の店にみられる品物と値段 (2)」
1925
24.2×18.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-37
今和次郎
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「通行
人の身分構成」
1925
24.3×18.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-38
今和次郎
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「職人・
人夫たちの上体衣」
1925
24.2×18.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-39
新井泉男
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「履物
(雨天)の現実」
1925
18.1×14.8
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-40
今和次郎
『本所深川貧民窟附近風俗採集』より「前掛
け採集図」
1925
18.1×14.1
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○しらべもの [考現学] 展覧会

2-41
しらべもの [考現学] 展覧会 会場風景
1927
11.0×15.1
プリント (オリジナルプリント)
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-42
しらべもの [考現学] 展覧会目録
1927
19.0×26.5
印刷物
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-43
今和次郎
蠶の歩き方 1 蠶ガ 50 cm / 平地ヲ横ギル時
間
1925
37.2×29.5
インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-44
小池富久
丸ビルモダンガール散歩コース No.1-No.2
1927
38.1×29.2
鉛筆、インク、水彩 / トレーシングペーパー、
紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-45-①
今和次郎
某新婚過程物品一切しらべ (間取り、I の室)
1925
29.3×37.5
インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-45-②
今和次郎
某新婚過程物品一切しらべ (II の室 (1)、
II の室 (2))
1925
29.3×37.5
インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-46
今和次郎、小澤省三
茶碗のワレ方 (1)
1927
29.3×37.1
鉛筆、インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-47
新井泉男
労働者露台利用休息状態
1925-26
29.3×37.1
鉛筆、インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-48
今和次郎、岡田達弥、新井泉男
三大学ぐるり調べ 早稲田
1926
21.0×18.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-49-①
新井泉男
帝大セツルメント児童服装調査 女子
1926
9.1×26.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-49-②
新井泉男
帝大セツルメント児童服装調査 男子
1926
18.5×22.6
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-50
今和次郎
宿屋の室内と御馳走 (宿屋の室内 (1)、宿
屋の室内 (2))
1926
29.4×37.3
インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-51
新井泉男
某々女学校作品展覧会分析
1926
25.0×18.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-52
吉田謙吉、今和次郎
おしめの文様帳
1925
37.6×29.3
インク / トレーシングペーパー、紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-53
今和次郎、永田直三
洋服のヤレ箇所
1927
37.6×29.3
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-54
今和次郎
東京場末女人の結髪
1926
37.7×29.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-55
今和次郎
井の頭公園自殺者地図
1925-27
27.0×38.2
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-56
今純三
『青森風俗断片』より「犬の皮を着た人々」
1927
22.2×14.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-57
今純三
『青森風景断片』より「列車のなか」
1927
18.6×21.9
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-58-①
今純三
自宅アトリエノ窓外風景
1931
9.0×14.2
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-58-②
今純三
青森市内石版画工の食事一週間しらべ
1927
22.0×19.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-58-③
今純三
青森師範学校入学受験者の服装しらべ
1930
27.0×20.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○考現学欧州の旅（『欧州紳士淑女
以外』）

2-59
今和次郎
パリ 女学生
1930
17.7×9.7
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-60
今和次郎
ロンドン 女学生
1930
17.7×9.5
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-61
今和次郎
コペンハーゲン ポーイスカウト
1930
17.7×9.7
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-62
今和次郎
パリ 食堂給仕
1930
16.5×10.5
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-63
今和次郎
ロンドン 女給
1930
17.7×9.8
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-64
今和次郎
ベルリン 女給
1930
17.7 cm × 9.8 cm
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-65
今和次郎
ロンドン 巡查
1930
17.7×9.7
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-66
今和次郎
ベルリン 煙突掃除夫
1930
17.7×9.8
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-67
今和次郎
パリ 労働者
1930
17.7×9.8
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-68
今和次郎
ロンドン ガラスふき
1930
17.7×9.8
鉛筆、水彩、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

2-69
撮影：今和次郎
セルフポートレイト、パリのカフェについて
1930
プリント
工学院大学図書館今和次郎コレクション

●セクション 3

建築家、デザイナーとしての
活動

○コミュニティをつくり出す建築

3-1
今和次郎
東京帝国大学セツルメントハウス 南立面、
西立面、平面図 1:100
1924年3月
54.7×398
青焼図
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-2
今和次郎
大越娛樂場 一部詳細図（小屋組） 1:20
1926 頃
75.5×56.0
青焼図
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-3
今和次郎
大越娛樂場 小屋組応力図 1:20
1926 頃
75.5×50.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-4
今和次郎
大越娛樂場 東立面、西立面（原案） 1:50
1926 頃
82.0×55.5
インク / 和紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-5
今和次郎
大越娛樂場 スケッチ
1926 頃
28.5×21.0
鉛筆 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-6
制作：工学院大学谷口研究室
大越娛樂場 模型 1:50
2011年新規制作
H28.0×D85.0×W65.0
ミクストメディア

3-7-①
撮影：今和次郎
大越娛樂場 繭の取引に使用中の平土間
俯瞰
1926 頃撮影
4.2×5.6
プリント
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-7-②
撮影：今和次郎
大越娛樂場 外観
1926 頃撮影
4.2×5.6
プリント
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-8
撮影：黒石いずみ
大越娛樂場 天井付照明器具
2011 撮影
写真

3-9
今和次郎
生保内村セツルメント 全景投影図
1935 頃
42.0×43.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-10
今和次郎
生保内村セツルメント 南立面、西立面（積
電線の書き込み） 1:100
1935 頃
22.0×28.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-11
今和次郎
生保内村セツルメント平面図 1:100
1935 頃
22.0×28.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-12
今和次郎
生保内村セツルメント 附属農家家屋 南
正面と室内投影図
1935 頃
29.0×22.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-13
撮影：生保内友の会
生保内村セツルメント（生保内友の会）
1965 頃撮影
写真
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-14
今和次郎
武蔵野ラウベン・コロニイ 平面図、立面
図
1937年12月1日
28.0×40.3
鉛筆 / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-15
今和次郎
秋田県立青年修練農場 本館遠望
1938
印刷物
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-16
今和次郎
秋田県立青年修練農場 1、2 階平面図、断面図 1:100
1938 頃
56.0×80.0
インク / 和紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-17
今和次郎
秋田県立青年修練農場 各立面 1:100
1938 頃
55.5×79.5
インク / 和紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○農村の暮らしをすまいから見つめる

3-18-①
今和次郎
生活別住宅使用図 (山梨県北巨摩村農家)
版下 ①生活別
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-18-②
今和次郎
生活別住宅使用図 (山梨県北巨摩村農家)
版下 ②団らん・神仏他行事
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-18-③
今和次郎
生活別住宅使用図 (山梨県北巨摩村農家)
版下 ③農作業・年中行事などカレンダー
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-18-④
今和次郎
生活別住宅使用図 (山梨県北巨摩村農家)
版下 ④農家の作業と家屋 養蚕の 1
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-18-⑤
今和次郎
生活別住宅使用図 (山梨県北巨摩村農家)
版下 ⑤養蚕の 2
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-19
今和次郎
(財) 同潤会・東北調査委員会 農村住宅素
人設計懸賞募集要項、応募用紙
1937
20.0×55.5
印刷物
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-20
今和次郎
積雪地方農村経済調査所 雪国試験農家家
屋 透視図
1937
28.0×37.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-21
今和次郎
積雪地方農村経済調査所 雪国試験農家家屋
1、2 階平面図
1937
28.0×37.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-22
今和次郎
積雪地方農村経済調査所 雪国試験農家家屋
3 階平面図、断面図
1937
28.5×37.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-23
新庄市雪の里情報館
積雪地方農村経済調査所 雪国試験農家家屋
模型
H55.0×D90.0×W90.0
ミクストメディア
新庄市雪の里情報館

3-24
新庄市雪の里情報館
積雪地方農村経済調査所 航空写真
1959 撮影
新庄市雪の里情報館

3-25
今和次郎、竹内芳太郎 [(財) 同潤会・東
北調査委員会]
東北地方気候区図 1:1,000,000
1940
64.0×45.0
青焼図
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-26
今和次郎、竹内芳太郎 [(財) 同潤会・東
北調査委員会]
農山村・漁村住宅標準設計・平面計画案 (う
ち漁村) 間取り一覧
1941
48.0×53.5
青焼図
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-27
今和次郎、竹内芳太郎 [(財) 同潤会・東
北調査委員会]
農山村住宅標準例第 9 号 (C5) 型平面図
1:100
1941
44.5×54.0
青焼図
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-28
今和次郎
農山村住宅標準例第 9 号 (C5) 型透視図
1941
28.5×42.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-29
東宝文化映画
農村でスケッチする今和次郎 映画『農村
住宅改善』より
1941
映像提供: (株) 東宝ステラ、日映アーカイ
ブ

○身の回りから考える自分らしい空間

3-30-①
今和次郎
男性、女性、子供用衣服収納棚 断面図、
平面図 (FORUM10 号、1938 年より模写)
28.5×20.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-30-②
今和次郎
台所収納棚 15 の新しい台所 (FORUM10
号、1938 年より模写)
28.5×20.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-30-③
今和次郎
掃除用具棚、冷蔵庫、収納 (FORUM10 号、
1938 年より模写)
28.5×20.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-31
今和次郎
生まれた家の記憶 (青森県弘前市百石町)
19.5×13.7
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-32
今和次郎
育った家の記憶 (青森県弘前市新町)
19.5×13.7
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-33
震災後の自邸 俯瞰
1924 頃
14.7×10.5 (台紙サイズ)
プリント (オリジナルプリント)
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-34
震災後の自邸 三角形の玄関
1924 頃
14.7×10.5 (台紙サイズ)
プリント (オリジナルプリント)
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-35
震災後の自邸 自室
1924 頃
14.7×10.5 (台紙サイズ)
プリント (オリジナルプリント)
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-36
自邸外観
8.5×12.5 (台紙サイズ)
プリント

3-37
今和次郎
自邸 敷地図
1929
27.7×20.0
インク、色鉛筆 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-38
今和次郎
自邸 立面スケッチ
22.2×29.0
鉛筆 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-39
今和次郎
自邸 敷地図 建増し拡張されたわが家の
家屋と屋敷
1940 頃
20.7×28.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-40
今和次郎
自邸 庭「ひょうたん形の芝生」
21.5×19.5
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-41
今和次郎
自邸マイハウスと HORKOSHI
24.3×33.0
鉛筆 / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-42
今和次郎
Y.T. 邸 立面図、平面図
24.3×18.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-43
今和次郎
渡辺甚吉邸山中湖別荘 湖水を眺める側立
立面図
1937 頃
28.0×22.2
鉛筆 / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

3-44 今和次郎 渡辺甚吉邸山中湖別荘 間取 (1階平面図) 1937 頃 28.0×22.2 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-53 今和次郎 石黒忠篤出張家屋 各立面 1:100 1934 年 1 月 1 日 53.0×70.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-61 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 17」 1912 106.0×54.0 紙本着色 東京藝術大学	3-68 今和次郎 渡辺甚吉邸 ナイフ・フォーク デザイン 案 1934 頃 28.5×20.0 鉛筆、ペン / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-45 今和次郎 渡辺甚吉邸山中湖別荘 断面図 B 1937 頃 28.0×22.2 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	○原点としての図按科 3-54 今和次郎 金地色蒔絵螺鈿入重箱図案 1907-1912 64.8×133.0 インク / 紙 東京藝術大学	3-62 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 18」 1912 105.5×78.3 紙本着色 東京藝術大学	3-69 撮影：九段写真研究所 渡辺甚吉邸 ナイフ・フォーク デザイン 案 1934 頃 28.5×20.0 鉛筆、ペン / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-46 製作：永井智子(カッテンカビネット)、演出： 大槻一雅、CG製作：株式会社ソニックビジョ ンクリエイト CG 映像「渡辺甚吉邸山中湖別荘」 2011	3-55 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 1」 1912 93.2×65.5 紙本着色 東京藝術大学	3-63 今和次郎 渡辺甚吉邸の椅子 肘掛付 肘掛なし 1934 頃 肘掛付 H126.0 (SH42.0) ×D54.0×W44.0 肘掛なし H117.5 (SH44.0) ×D42.0×W45.0 木 早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学 科	3-70 撮影：九段写真研究所 渡辺甚吉邸 内観 応接室 1934 頃 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-47 今和次郎 鳴海邸 見取図 (透視図) 1938 年 5 月 25 日 28.5×41.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-56 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 2-5」 1912 91.0×66.0 紙本着色 東京藝術大学	3-64 今和次郎 渡辺甚吉邸のカトラリー プロトタイプ、 石膏模型、完成品一式 1934 頃 木、石膏、銀 早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学 科	3-71 今和次郎 渡辺甚吉邸の室内装飾 2011 撮影
3-48 今和次郎 鳴海邸 北立面、南立面 1:100 1938 年 5 月 25 日 28.5×41.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-57 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 6」 1912 紙本着色 東京藝術大学	3-65 今和次郎 渡辺甚吉邸の玄関天井吊照明 立面図 (原 図) 1:10 1934 頃 28.0×21.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-72 日本建築学会 日魯漁業函館支店ビルの竣工データ (設計： 図師嘉彦)『建築雑誌』1939 年 1 月号より (複 写) 1939 印刷物 社団法人日本建築学会
3-49 今和次郎 鳴海邸 1階平面図 1:100 1938 年 5 月 25 日 28.5×41.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-58 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 7-10」 1912 94.5×52.0 紙本着色 東京藝術大学	3-66 今和次郎 渡辺甚吉邸の広間天井吊照明 立面図 (原 図) 1:10 1934 頃 28.0×21.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-73 今和次郎 日魯漁業函館支店のためのデザイン画 1938 頃 38.0×72.0 水彩 / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-50 今和次郎 竹浪邸 1階平面図 1:100 1939 29.7×42.0 青焼図 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-59 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 11」 1912 94.5×69.0 紙本着色 東京藝術大学	3-67 今和次郎 渡辺甚吉邸の第一応接室天井吊照明 立面 図 (原図) 1:10 1934 頃 28.0×21.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-74 今和次郎 日魯漁業函館支店のためのデザイン画 1938 頃 36.0×77.0 水彩 / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-51 今和次郎 竹浪邸 東立面、南立面 1:100 1939 29.7×42.0 青焼図 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-60 今和次郎 卒業制作「装飾図案十八 12-16」 1912 96.8×57.0 紙本着色 東京藝術大学	3-68 今和次郎 渡辺甚吉邸の第一応接室天井吊照明 立面 図 (原図) 1:10 1934 頃 28.0×21.0 鉛筆 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	3-75 今和次郎 日魯漁業函館支店の大会議室の壁画原案 1938 頃 28.5×20.5+28.5×59.0 水彩 / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション
3-52 撮影：(有) スタジオクルー 竹浪邸外観 2011 撮影 写真			

●セクション4

教育普及活動とドローイング のめざしたもの

○教壇からの発信

- 4-1
授業中の今和次郎
1956
13.0×9.0
プリント
稲門建築会今和次郎先生古希記念事業会アルバムより
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-2
今和次郎
装飾演習の授業で用いられていた装飾見本
19.5×27.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-3
今和次郎
『装飾様式演習Ⅰ 西洋古代』
1954
26.0×23.0
出版物（発行：相模書房）
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-4
今和次郎
『早稲田建築講義』
1934
22.5×15.0
出版物（発行：早稲田大学出版部）
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-5
今和次郎
講義掛図「様式ごとのシルエットの変遷」
78.0×108.5
グワッシュ / 模造紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-6
今和次郎
講義掛図「銀座に於ける洋装の色彩調査
1950年9月4日」
78.0×108.5
グワッシュ / 模造紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-7
今和次郎
講義掛図「椅子背もたれの角度・高さ」
78.0×108.5
グワッシュ / 模造紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-8
今和次郎
『住生活』
1945
18.3×12.6×0.8
出版物（発行：乾元社）
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-9
今和次郎
『女性服装史』
1948
18.3×12.5×1.7
出版物（発行：長谷川書店）
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-10
今和次郎
西洋服装史序説
1935
22.2×20.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-11
今和次郎
『服装研究』
1947
18.0×12.7×1.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-12
今和次郎
『服装研究』表紙 原画
18.0×27.5
鉛筆、インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-13
今和次郎
西洋服装史の模写
30.0×20.5
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-14
今和次郎
西洋・日本 古代?近代女性服装史概略図
31.2×54.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-15
今和次郎
1914-1941年の社会とスカートの裾線の動き
13.0×18.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-16
今和次郎
衣服気候図
21.5×14.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-17
今和次郎
東京の12ヶ月と衣替
20.0×17.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション

- 4-18
今和次郎
中世の頭装の巻き方
1933
14.2×22.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-19
今和次郎
a. 人体の均整 (CH シュトラッツの原画に基づく)
b. 良いコルセット、悪いコルセット
18.5×10.5、14.5×10.5
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-20
今和次郎
a. 悪い靴のため曲がった足指 (ホアフによる)
b. 良い靴 (ab) と悪い靴 (c) を履いた足 (マイエルによる)
10.5×17.0、10.5×17.0
インク / トレーシングペーパー
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-21
今和次郎
十二単の着方
20.0×27.2
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

○大衆を動かすドローイング

- 4-22
今和次郎
新開拓地の農家における主婦の一日の生活時間
1956
27.5×19.7
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-①
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ①家計
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-②
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ②主人
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

- 4-23-③
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ③主婦
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-④
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ④老人
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-⑤
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ⑤息子
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-⑥
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ⑥娘
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-⑦
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ⑦子供
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-23-⑧
今和次郎
新時代の生活方向 家庭の各員の生活マゼ / 線を防備ませう ⑧乳幼児
1940
28.5×22.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-24
今和次郎
衣服所有の病的な状況
21.0×15.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション
- 4-25
今和次郎
食器所有の病的な状況 (用途別比率)
25.0×21.0
インク / 紙
工学院大学図書館今和次郎コレクション

4-26 今和次郎 ある家庭の一日の生活記録 (1941.11.15) 笹山京『国民生活の構造』に基づく 1945 25.6×19.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-34 「今年こそ電化しましょう」松下電器産業 PR誌『くらしの泉』より 1967年12月10日発行 17.0×18.0 印刷物 個人	4-43 今和次郎 籠を背負った農夫 18.5×10.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-2 早稲田大学教授就任頃の今和次郎、32歳 1920 13.6×7.7 プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-27 今和次郎 台所の改善案 1945 22.0×16.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	○「身体にまとう」ドローイング 4-35 今和次郎と文化服装学院の女性職員たち 16.0×22.2 プリント 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-44 今和次郎 陸奥のケラ 16.5×10.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-3 撮影：富塚一弥 写生する今和次郎、36歳 (裏面にK氏像、 富塚一弥) 1924 29.4×20.4 プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-28 今和次郎 土間の改善案 18.0×16.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-36 日本ユニフォームセンター 日本ユニフォームセンター業務案内パンフ レットと会長職名刺 1962頃 21.0×16.0 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-45 今和次郎 京都大原の農婦 16.5×10.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-4 調査旅行中の今和次郎、40歳 1928 10.2×8.0 プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-29 今和次郎 若夫婦と老人とで住む家の提案 26.5×16.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-37 撮影：農山漁村文化協会 日本各地の農衣を着た女性 (青森、岩手、 山形)『裁ち方縫い方 農家の衣生活』より 1954頃 11.5×8.0 プリント 社団法人農山漁村文化協会 1954年発行 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-46 今和次郎 岩手県御明神村の農衣 13.0×11.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-5 机に向かう今和次郎、51歳頃 1939 16.0×10.5 プリント (オリジナルプリント) 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-30 今和次郎 今和次郎、日本テレビ番組集カスタジオに て 1954 11.8×11.5 プリント (稲門建築会今和次郎先生古希記 念事業会アルバムより) 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-38 今和次郎 越後三条の農夫 22.0×15.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-47 今和次郎 越後三条の農婦の野良着 18.0×16.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-6 とし子夫人と今和次郎、70歳台 (複写) プリント (稲門建築会今和次郎先生古希記 念事業会アルバムより) 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-31 東京新聞 新聞記事「和服の警官が登場」 昭和37年5月2日 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-39 今和次郎 襦袢 18.0×17.4 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-48 今和次郎 羽後の蓑帽子 (子供用) 18.0×16.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-7 今和次郎 自画像、27歳 1915 28.7×21.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
4-32 今和次郎 日本経済新聞連載「野暮天先生」(スクラッ プブック) 1967年9月27日掲載 30.0×22.0 印刷物 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-40 今和次郎 山形県南遊佐村のハンコタナの巻き方 21.0×14.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-49 今和次郎 もんべの分布図 12.5×17.5 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-8 今裕 『近世病理解剖学』 1913 26.0×18.0 出版物 (発行：南山堂) 岩手大学情報メディアセンター図書館
4-33 今和次郎 自筆原稿 (童心にかえる)「野暮天先生」よ り 1967年9月27日掲載 25.2×18.0 インク / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-41 今和次郎 山形県南遊佐村の農衣とハンコタナ 21.0×14.0 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-50 今和次郎 陸奥のコギン 19.0×16.5 インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	0-9 今純三 母、今きよのデスマスク 1928年4月25日 19.0×27.2 鉛筆、色鉛筆 / 紙 工学院大学図書館今和次郎コレクション
	4-42 今和次郎 京都府愛宕郡修学院高野の農夫 18.5 cm × 10.5 cm インク / トレーシングペーパー 工学院大学図書館今和次郎コレクション	4-51 津軽民芸 こぎん 1900年代初頭 麻、木綿 大川亮コレクション	0-10 斎藤佳三 リズム模様 (1) (3) 1924頃 23.8×13.5、23.8×15.0 水彩、鉛筆 / トレーシングペーパー 東京藝術大学
		○今和次郎、家族、友人 0-1 製作：永井智子(カッテンカビネット)、演出： 大槻一雅 映像「ジャンパー先生時代を歩く」 2011新規制作	

0-11
愛用の桜クレヨン
H1.0×D10.0×W21.0
木
工学院大学図書館今和次郎コレクション

0-12
愛用の三角定規
14.0×24.0、17.0×17.0
木
工学院大学図書館今和次郎コレクション

掲載記事

朝日新聞

2011年10月21日（金）
「南仲坊×中村好文トークセッション（弘前）」

2011年12月25日（日）
読書 石川直樹書評委員お薦め「今年の3点」 ③今和次郎 採集講義

東奥日報

2011年10月17日（月）
「今和次郎「考現学」に光 青森の3館が関連展覧会」

2011年10月21日（金）
「今和次郎「考現学」街歩き体感しよう 講師に南仲坊氏」

2011年10月29日（土）
「日常生活 詳細に記録 「今和次郎展」きょう開幕」

2011年11月4日（金）
「アートの散歩道 26 今和次郎の活動見直す 飯田高誉」

2011年11月8日（火）夕刊
「東奥春秋 考現学って？」

2011年11月18日（金）
「震災後の問題なぞる 県美・今和次郎展に寄せて 青木淳」

2011年11月18日（金）夕刊
「考現学に理解深める 弘実 今和次郎展の出前講座」

2011年11月26日（土）
今和次郎展 関連映画上映会

2012年3月2日（金）
「アートフル・デイズ」今和次郎「採集講義展」

毎日新聞

2011年10月18日（火）
「考現学」創始・今和次郎を紹介 企画展前に青森でサテライト展示

陸奥新報

2011年10月9日（月）
今和次郎展で関連イベント 12日から県美

2011年10月13日（木）
「考現学」創始者 今和次郎（弘前出身）ス

ケッチに独自の視点 29日から県美「採集講義」サテライト展はじまる

2011年10月21日（金）
考現学ごっこしよう！小中学生対象にワークショップ 県美 あす青森、23日弘前で

2011年11月18日（金）
今和次郎の業績学ぶ 弘実高で県美が出前講座 「考現学」の研究紹介

2011年11月26日（土）
県美「今和次郎」展関連イベント あす映画上映会

読売新聞

2011年10月13日（木）
「考現学」資料一挙公開 創始者・今和次郎が調査収集 29日から

2011年10月23日（日）
考現学考える体験学習 創始者・今和次郎もテーマに

2011年10月29日（土）
今和次郎採集講義展 内覧会で資料公開きょう開幕

2011年10月30日（日）
今和次郎展が開幕 県立美術館

2011年11月8日（火）
今和次郎採集講義展（上）大正期の銀座の装い伝える 板倉容子

2011年11月9日（水）
今和次郎採集講義展（中）民家の縁先 創意工夫描く 板倉容子

2011年11月10日（木）
今和次郎採集講義展（下）農家の主婦過重労働を図表化 板倉容子

2011年11月10日（木）
考現学 ユニーク展示も 関連イベント続々

2011年11月18日（金）
出前講座で今和次郎 弘前の高校 スケッチ紹介

2011年12月7日（水）
統計グラフの作品展示 青森「今和次郎展」記念で

2011年12月11日（日）日曜版
異才列伝 今和次郎 考現学生んだ「津軽の父ちゃ」

2012年2月23日（木）
「デザイン季評」関東大震災後の明るさ」

日本経済新聞

2012年1月14日（土）
文化 考現学の祖 震災が生んだ異才 東

北の農村歩き生活改善に尽力

週間読書人

2012年1月20日（金）
読物文化 今和次郎著 今和次郎 採集講義
仕事がまとめられ意義深い 知られてこなかった知見もほりおこす 井上章一

平成 23 年度常設展示

Permanent Exhibition 2011

春のコレクション展：コレクションの力、青森の力
2011年4月9日(土)－6月12日(日)〔常設展エリア〕
2011年4月23日(土)－6月12日(日)〔企画展エリア〕
開催日数：61日間

青森県の文化拠点としての県立美術館が未曾有の震災からの復興に向けて発信する展覧会の第一弾として、全展示室を使ったコレクション展を開催。青森県、そして東北が持つ豊かな力を再確認する機会と位置づけた。

企画展示室

展示室 A 野澤如洋と蔦谷龍岬：異端の表象

青森県出身の日本画家、野澤如洋と蔦谷龍岬の作品を紹介した。野澤如洋は速筆による馬の絵で知られるが、その画業の真価は山水図の方にあると言われている。如洋が活躍したのは、横山大観、菱田春草らがおしすすめた没骨法によって近世以前の絵画の特徴であった線描の伝統が急速に失われ、代わって、いわゆる「日本画」が成立した時代。そんな中、如洋は時代遅れになりつつあった伝統絵画の線描にこだわり続け、独自の画業を切りひらいていった。蔦谷龍岬は文部省美術展覧会（文展）の第9回展で「静日」が初入選して以降、一貫して官展系の展覧会を舞台に活躍した作家である。龍岬は次々と特選を重ね、やがて委員や審査員も歴任するなど将来を嘱望されたが、1933（昭和8年）、惜しくも48歳の若さでこの世を去った。

如洋と龍岬の作品からは、作家の強烈な個性と芸術に対する強い信念が読み取れる。両者の表現もまた「青森の力」と無縁ではないだろう。

展示室 B 土のいのち：民芸作家の陶作品

棟方志功が1936年、出世作となる「大和しよし」を国画会に出品したとき、作品のあまりの大きさに部分のみの展示とされそうになったのを救い、一早く棟方を評価したのが陶芸作家の濱田庄司であった。その後、棟方は柳宗悦を識り、民芸運動の中心となった河井寛次郎の教えをうけるなど、民芸運動と密接な関係を持つようになっていった。青森県立美術館では棟方とかわりの深い、彼ら民芸作家の作品も収集している。棟方が「板画」の名のもと板木のいのちを彫りだそうとしたように、民芸運動に集った陶芸家たちは、地方の窯から生まれた陶芸や、イギリスの伝統的な陶器をモチーフとし、過剰な装飾よりも用の美に重点を置き、素朴で力強い土のいのちを感じさせる造形を行った。この展示室では、濱田・河合の作品に加え、濱田や柳とともに日本民藝館設立にかかわったイギリス人の陶芸家、

バーナード・リーチの作品を展示した。

展示室 C 工藤哲巳：あなたの肖像

工藤は「反芸術」の旗手として活躍した後、1962年からパリに拠点を移し、晩年の1987年に東京芸術大学教授となり帰国するまでの20数年間、ヨーロッパの閉塞した社会をショッキングな表現方法で挑発し続けた。2008年にはアメリカで大規模回顧展が開催されるなど、その活動は近年さらに評価が高まっている。

繁栄を誇るかにみえる近代文明を独自の視点から捉え、現代社会における人間の在り方に深い疑問を投げかけ、ショッキングな表現で人々の前に提示し続けた工藤哲巳。その深い思索と哲学に裏打ちされた作品が発する「警告」は、現在もなお我々に鋭く迫ってくる。

展示室 D 前廊下 澤田教一：安全への逃避

1965年9月6日、その日、米海兵隊は、ベトナムのクィニョンという川沿いの村で、掃討作戦を実行していた。ベトコン狙撃兵の発砲を受けた米軍が、ナバーム弾で空から村に攻撃を仕掛けようとした時、避難を呼びかけられた村人の一群が川へ飛び込んだ。対岸にいたカメラマン・澤田教一は、着のみ着のまま必死に泳いでくる親子の姿を見逃さなかった。《安全への逃避》という名で「ワシントンポスト」をはじめ、数々の紙面を飾ったこの一枚の写真は、その年の第9回世界報道写真展のグランプリを、翌年には、ジャーナリズムの最も権威ある賞とされるピューリッツァー賞を与えられる。澤田がベトナムの戦場で本格的な取材を開始して、わずか二ヶ月ほどの内に撮った写真であった。

《安全への逃避》以後も澤田は、第10回世界報道写真展で第一位、第二位を受賞した、《泥まみれの死》(1966年)、《敵をつれて》(1966年)など、たて続けに傑作を生み出している。そして1970年3月にはクーデターの勃発で混乱を極めるカンボジアで取材を始める。同年の10月、UPIプノンペン支局長とともにプノンペン近郊に取材に出かけた澤田は、移動中にクメール・ルージュと思しき一群の銃弾に倒れる。34歳だった。

澤田の写真は、ベトナム戦争の真実をもっとも雄弁に語るイメージとして、世界中で高い評価を得ている。

展示室 D 1950-60年代、戦後日本美術の歩み

工藤哲巳が作家としての活動を開始した1950年代後半は、経済の高度成長と政治の混乱によって人々の生活や価値観が大きく変わった時代。そうした世相を受けて、多くの若い作家たち

が旧来的な芸術観を否定し、新しい価値を創造するべく様々な実験的試みを行った。

この展示室では、そうした1950年代－1960年代の美術状況を映し出した作品を紹介した。多様かつ混沌とした、そして何よりも新しい価値を作ろうとする強烈なエネルギーに満ちた作品の数々をとおして、日本の高度成長期の時代相を振り返り、現代に与えた影響の大きさについて考えてみた。

展示室 E 青森県の近代洋画：松木満史を中心に

青森県の近代洋画の発展において、もっとも重要な役割をはたしたのが松木満史である。「白樺」に代表されるような大正ヒューマンイズムの洗礼をうけた松木は、大正末、まだ十代のころに、志を同じくする画友の棟方志功、鷹山宇一、古藤正雄と語って青森市で美術団体「青光画社」をたちあげ、公募展を行い、画家への第一歩を踏み出した。棟方たちと競い合うように上京し、国画会に所属した松木は、1938年、フランスに渡り、油彩の本場で学ぶが、戦争の激化により志半ばで帰国。その後は青森市に美術研究所を作り、芸術への厳しい姿勢を保ち、数多くの後進を育てた。

この展示室では、松木と青光画社の仲間たちの作品を挟み、彼らの前の世代、本格的な洋画を青森で展示し、彼らに大きな影響を与えた木谷末太郎や、今純三の作品、松木の薫陶をうけ、国画会の後輩として活躍した小館善四郎、渡辺貞一、名久井由蔵、石ヶ森恒蔵といった画家たちの作品を展示し、それぞれの個性を豊かに発揮した青森の近代洋画の歩みを紹介した。

常設展示室

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画（通年展示）

展示室 F 奈良美智：インスタレーション

青森県弘前市出身の奈良美智は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど、精力的に発表を続けている。青森県立美術館は、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を越える。『Hula Hula Garden』と『ニュー・ソウルハウス』という2点のインスタレーション（空間設置作品）を中心に、奈良美智の世界を紹介した。

展示室 G 寺山修司：青少年のための寺山修司入門

寺山修司が活躍した1960－70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていた。

このコーナーでは、寺山が主宰したアングラ文化の象徴とも言うべき「演劇実験室◎天井桟敷」のポスター18点と、豊かなイメージの世界を描いた数々の実験映画を、寺山の片腕として活躍した森崎偏陸による編集によって紹介した。

棟方志功展示室 神仏の世界

代表作《二菩薩釈迦十大弟子》をはじめとして、棟方は神仏を題材として数多くの作品を制作している。

1936年、柳宗悦ら民芸運動の指導者の知遇を受けた棟方は京都の陶芸家・河井寛次郎のもとで禅の講義を受けたり寺社仏閣を見学するなど遊学の機会に恵まれ、仏の世界をテーマにした板画《華嚴譜》を生み出した。《華嚴譜》は華嚴経をもとに制作した作品であるが、棟方は經典の幻想的な部分に発想を得て自分の表現も取り入れて自由に制作している。

火炎に包まれた不動明王の憤怒の表情、菩薩の慈悲深いおおらかな顔など、仏の様々な姿を板木に刻みたいと感じたと述べている。仏の無限の世界、幻想の世界にかき立てられ棟方は独創的な作品を数多く制作した。

今回の作品では、神仏を描いた棟方の数多くの作品のなかから、墨一色で摺られた力強いユニークな作品を紹介した。

展示室 N 林田嶺一：満州ポップ

林田は1979年頃から満州での幼年期から引き揚げ帰国までの記憶をテーマに作品を制作、発表してきた。

2001年、67歳の時、連作33点で構成したインスタレーションを現代美術新人作家の登竜門と言われた「キリンアートワード」に出品し、優秀賞を受賞。遅れてきた新人と評された。その作品群は戦時下の体験をモチーフにしたものながら、重くならがちなテーマをポップな感覚で表現し、これまでの戦争画とは対極にある華麗で鮮烈なイメージを表出させている点にその特徴がある。かつての満州国は中国、日本、ロシア、ヨーロッパなどの様々な文化が流入していた地域で、林田は幼少時の記憶の断片を構成しながら、かつて存在していたであろう豊かな光景を再構築していったのだ。このコーナーでは平成21年度に作家より一括して寄贈いただいたシリーズ 44 点のうちから 7 点を紹介した。

展示室 O リチャード・ロング：白神山地を歩く

ロングは、1997年 5 月末、世界遺産・白神山地に青森県側から入山し、8 日間にわたり単独歩行した。この「歩行」の中で、フォトワーク『白神山地歩行シリーズ』が生み出された。「青い森の歩行」、「キャンプ地の石」、「初夏の円環」、「白神の線」、「白神の円環」の 5 点からなるこのシリーズは、作家自身がそこに存在したことを示すわずかな痕跡を含んだ風景写真と短いテキストから成っている。

白神山地下山後、作家は「白神で自分の存在は地を這う小さな虫のようなはかないものだった」と語ったと伝えられている。

展示室 P,Q 鈴木理策：青森県立美術館

美術館の設計者である青木淳の依頼により、鈴木理策は開館前

の美術館を計 5 回訪れ、多くのシャッターを切った。その成果は『青木淳 JUNAOKI COMPLETE WORKS 2 AOMORI MUSEUM OF ART』(INAX 出版、2006 年)にまとめられているが、それらは単なる「建築写真」や「1 枚の作品」という概念を越え、鈴木理策という作家の存在が強く刻み込まれた、「場」、そして「意識」の連続する物語性を強く持っている。青森という地域と美術館という建築の関係性を鈴木の見点で表現したロードムービー的な連作とも言えるだろう。一方で、個々の作品においても、美術館の空間としての強度やディテールの質感が、静かに、そして強く捉えられており、漫然と美術館を歩くだけでは見落としてしまいがちな建築としての魅力も存分に伝えてくれる。

展示室 M 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨(1929-2002)は、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。美術家としての高い感性によってデザインされたヒーロー、怪獣は、モダンアートの成果をはじめ、文化遺産や自然界に存在する動植物を引用して生み出される形のおもしろさが特徴である。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから「フォルムの意外性」を打ち出していくというその一貫した手法からは成田の揺らぐことのない芸術的信念が読みとれるだろう。

展示室 L XA プロジェクト：津軽と L

「津軽」と関わった 3 者の写真を展示。

小島一郎は昭和30年代、青森県内をくまなく歩き、津軽や下北の風景を撮り続けた青森市出身の写真家。遺族から寄託された写真や資料の中から、「津軽」を撮った写真のアルバムや 200 点を超えるネガケースなどを展示した。

大阪府出身の森山大道は昭和50年代に津軽地方を訪れて撮影を行った。十数年前に小島一郎が歩いたほぼ同じ場所にも足を運んでいる。そのとき撮った写真が、昨年初めてまとまった形で発表されました。「津軽」のシリーズの一部を展示した。

美術家である弘前市出身の奈良美智にとって、写真は表現手段の一つですが、主要なものではない。写真に対するアプローチはとても軽やかで、カジュアルで、私たちが日常で写真を撮る感覚と似ている。旅先の沖縄で出会った猫の写真を展示する。小さな部屋で、時間と場所が大きくなれを起こしながら連なっていく三者の写真に囲まれたとき、何が見えてくるだろうか。

■出品作家

小島一郎(写真家/1924-1964)

森山大道(写真家/1938-)

奈良美智(美術家/1959-)

[協力]森山大道、奈良美智、小島弘子、タカ・イシイギャラリー、杉戸洋

※展覧会の趣旨をご理解くださり、貴重な作品を貸して下さった個人コレクターの方々に心から感謝申し上げます。

◎「X (バイ) A (エー) プロジェクト」は、青森県立美術館のコレクションと建築空間の新たな魅力を引き出すための継続的プロジェクトです。国内外のアーティストの作品やさまざまな創造の分野で活躍する人たちの発想など、青森県立美術館のコレクションあるいは建築空間に、新しい可能性を切り開く実験的な要素をかけ(X)合わせることで、その特性と普遍性について考えます。

展示室 J 小島一郎：津軽—下北

大正13(1924)年、青森市大町で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島一郎は、青森県立商業学校(現：青森県立青森商業高等学校)を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、昭和29年頃から本格的に写真を始めた。

津軽平野の秋の田で日がな一日働く農夫たち。寒風吹きすさぶ下北の浜辺で、必死に船を引き揚げる漁師。郷土、青森に生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に刷り込むようにして力強く焼きつけた写真の数々は、39歳という早すぎる死の後、展覧会や写真雑誌で取り上げられ、近年その評価は高まり続けている。

今回は、遺族から当館に寄託されている3,000点以上におよぶ作品と資料の中から代表作を展示した。

展示室 K 「縄文」と小野忠弘

弘前市に生まれ、1942年から福井県に在住して制作活動を続けた小野忠弘。縄文文化を原点として悠然と自己の芸術を追究したその作風は、フランスの批評家ミシェル・タビエに「世界に通じる日本的作品」と絶賛されたほどである。

本コーナーでは、原初の混沌がもつ実在感、秩序以前の生命力を探求した小野作品と、三内丸山から出土した縄文遺物とあわせて紹介することで、「縄文」と「現代」の表現における共通性を探った。

展示室 I 斎藤義重：思考する板

絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重。

今回は、後期作品の重要な素材であった板(主にスプルース材)に着目し、その幾何学的な構成による作品を紹介した。ここでは、木の素材感が可能な限り消された板が多様に重なり、また複雑に構成されることで、板と板との緊張感ある関係、そして板と空間との豊かな関わりが追求されている。何を示し、何を意味するのではなく、純粹なる「もの」として存在するこれら作品は、受け手に思考と解釈を要求する。ただし、そこに何らかの「正解」がある訳ではない。作品をきっかけとして、それぞれの思索や感性を深化させていくこと。「分かりやすさ」が重視される現代において、斎藤が残した作品群はより重要な意味を持ち始めているのではないだろうか。

展示室 H 馬場のぼる：“ネコばば”と仲間たち

馬場のぼるは、絵本「11ぴきのねこ」シリーズの作家として知られる青森県三戸町出身の漫画家である。一冊目の『11ぴ

きのねこ』は1967（昭和42）年に出版された作品であるが、40年以上を経た現在もなお、多くの子どもたちに愛され続けている。

昭和を代表する漫画家、横山隆一をして「馬場のぼるにはネ。『ネコ』を描かせたくない・・・あんなスゴイ猫はいかん。ばばネコは禁じ手だよ。」と言わしめた馬場のぼるを、漫画家仲間たちは敬意を表して、猫を描く名人“ネコばば”と呼んでいた。

今年は馬場のぼる没後10年にあたる。今回の展示では、馬場のぼるのイラスト原画を展示するとともに、馬場のぼるが長年活動を共にし、よき遊び仲間でもあった「漫画家の絵本の会」メンバーのうち5人の漫画家によって描かれた馬場のぼるへのオマージュ作品をあわせて展示した。

夏のコレクション：青森ゆかりの美術家たち

2011年6月21日（火）－10月10日（日）

開催日数：110日

青森県にゆかりのある美術家の作品を中心に紹介した。「青森」が生み出した多彩で個性豊かな表現を検証するとともに、マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画3点や、白神山地をモチーフにしたリチャード・ロングの写真作品、青森の豊かな自然に取材した洋画作品なども展示した。

棟方志功展示室 わだばゴッホになる

若き日の棟方が画家を志すきっかけとなったのはゴッホの「向日葵」との出会いであった。大正10年（1921）、雑誌『白樺』に掲載されたゴッホの「向日葵」に衝撃を受けた棟方は「わだば（私は）ゴッホになる」と決意。「わたくしは、何としてもゴッホになりたいと思いました。プルシャンプルーで描かれたゴッホのひまわり、グルグルして目の廻るような、輝きつつく、あんなひまわりの絵が描きたかったのです」と後年自伝の中で回想している。油絵を描き始めた棟方は青森で仲間と洋画の会「青光画社」を結成し作品展を行うなど精力的に活動していった。当時の棟方の絵はゴッホの風景画を思わせるものが多かったという。

しかしその後上京し帝展への出品を続けるうちに棟方は、油絵は西洋の絵画であり西洋人を超えることはできないのではないかと、西洋の真似事ではなく日本古来のもので美を追求していこうと思い始めた。尊敬するゴッホが日本の浮世絵版画を好んで蒐集し賞賛してやまなかったことも板画の道へ進む想いを強くし、板画の制作を始めるようになっていった。

今回の展示では、棟方が油絵画家を目指していた頃の貴重な初期の油絵をはじめ、板画の代表作約20点を展示し、「わだばゴッホになる」と言い続けて世界へと羽ばたいた棟方の幅広い芸業を紹介した。

展示室 N 特別史跡 三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現

特別史跡三内丸山は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡である。縄文時代前期中頃から中期終末（約5500年前－4000年前）にかけて長期間にわたって定住生活が営まれている。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなった。また、他地域との交流、交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA分析によるクリの栽培化などが明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても重要な意味を持っている。当時の人々が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、私達を魅了し続けている。

展示室P,Q 画家達の青春—棟方志功のライバルたち

若き日の棟方志功が「わだばゴッホになる」と、画家への第一歩をあゆみ始めた頃、彼には志を同じくする友人達がいた。棟方は1921年美術団体青光画社を結成したが、松木満史、鷹山宇一と、のちに彫刻家となったむつ市出身の古藤正雄が参加し、松木と棟方が審査員をつとめる公募展を開催し、好評をもってむかえられている。

木造町出身の松木満史は、白樺派に傾倒し、美術のみならず文学や演劇にも関心が深く、棟方にとって芸術について語りあう親友であった。松木は後に上京、1938年にはかねてよりあこがれていた美術の中心地、フランスへの渡航を果たす。家族の不幸や戦争の激化などにより、1年半で帰国を余儀なくされるが、帰国後の作品には印象派の明るい光がとりいれられるようになっていく。今回はパリへの渡航の際の船中や寄港地などで描かれた淡彩によるスケッチと、渡航前と渡航後の油彩画を一点ずつ展示した。

七戸出身の鷹山宇一は、棟方と出会った当時、旧制青森中学の学生であったが、青光画社に参加。戦前はフォービズムの影響をうけた油彩画、シュールレアリスムの精緻な木版画を描いていたが、戦後は豊かな幻想をたたえた油彩画を主にえがくようになり、二科会の重鎮として活躍した。今回は戦後の作品の中から、郷愁にあふれた幻想的な作品を展示した。

棟方と同世代で、画家を志していた若者達の中には、のちに絵画団体系現会の創立者の一人となり、日展を中心に活躍した弘前生まれの洋画家、奈良岡正夫もいた。小学生の頃から絵を描き始め、青光画社展に刺激されて弘前から絵を担いでいき、一緒に展示してもらったこともあったという。兵役をうけたあと入院していた陸軍病院で出会った画家・考古学者の小野忠明に励まされ、本格的に画家の道を志すようになるが、小野は前衛芸術家の小野忠弘の兄で、棟方志功にゴッホの「ひまわり」の図版を見せた人物でもあった。今回は東奥日報社から寄託されている大変貴重な戦前の静物画を展示した。

「青光画社」展で自信をふかめた若者達は、つぎつぎに上京し、棟方は当時もっとも権威があった帝国美術院展覧会（帝展）に入選することをめざすが、何度も繰り返し落選する。その頃、女子美術学校（現女子美術大学）の学生でありながら、帝展に入選し、棟方達から羨望の目でみられていたのが、青森市の女性画家、橋本花（結婚前の名前は原子花）であった。帝展に落選し、意気消沈した棟方は、橋本花に自らの絵をみせてアドバイスを求める。「デッサンができていない」というのが花の答えであった。特定の師もなく、美術学校などでの正式の教育を受けているわけでもない棟方はその意味がはっきりとわからないままに、必死で様々な対象、さまざまな形を描く訓練をし、それが後の即興的で自在な描画の基礎となったという。今回は、昭和初年、ちょうど棟方が帝展をめざし苦闘をつづけ、ようやく入賞することができたころの、花の作品を展示した。

●無料ゾーン（キッズルームとしても利用）

展示室H 馬場のぼる：“ネコばば”と仲間たち

馬場のぼるは、絵本「11ぴきのねこ」シリーズの作家として知られる青森県三戸町出身の漫画家である。一冊目の『11ぴきのねこ』は1967（昭和42）年に出版された作品であるが、40年以上を経た現在もなお、多くの子どもたちに愛され続けている。

昭和を代表する漫画家、横山隆一をして「馬場のぼるにはネ。『ネコ』を描かせたくない…あんなスゴイ猫はいかん。ばばネコは禁じ手だよ。」と言わしめた馬場のぼるを、漫画家仲間たちは敬意を表して、猫を描く名人“ネコばば”と呼んでいた。今年は馬場のぼる没後10年にあたる。今回の展示では、馬場のぼるのイラスト原画を展示するとともに、馬場のぼるが長年活動を共にし、よき遊び仲間でもあった「漫画家の絵本の会」メンバーのうち5人の漫画家によって描かれた馬場のぼるへのオマージュ作品をあわせて展示した。

■その他常設展展示（春のコレクション展より引き続き展示）

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画

展示室F 奈良美智：インスタレーション

展示室G 寺山修司：青少年のための寺山修司入門

展示室O リチャード・ロング：白神山地を歩く

展示室M 成田亨：怪獣デザイン的美学

秋のコレクション展：特集 縄文／創造の原点から
2011年10月15日（土）－12月11日（日）
開催日数：55日間

【特集】縄文／創造の原点から

国内最大の縄文遺跡、三内丸山遺跡に隣接する青森県立美術館は、縄文という芸術の原点を見つめ、今日の芸術を問うための、理想的なロケーションにある。棟方志功や戦後の前衛芸術家である工藤哲巳や小野忠弘など青森県ゆかりの作家から、現在活躍する彫刻家・金沢健一にいたるまで、近現代の芸術家たちの造形表現に縄文の精神との共鳴をみながら、創造の原点と芸術の役割について考える。

棟方志功展示室 棟方板画の世界－原始の生命

棟方志功は、舞い踊る神仏や天女の姿を大画面いっぱいに描き表し、数々の大作を生み出した。躍動感あふれる作風には原始のエネルギーが感じられる。

代表作《湧然する女者達々》（1953年）は、経典の世界を6人の裸婦の姿で表現した作品だが、裸婦たちは大胆に胸が誇張され、土偶を思わせるようなどっしりとした重量感ある姿態で表現されており、生命力に満ちあふれています。また、《両妃散華の柵》（1951年）では、縄文土器を思わせるような装飾性に富んだ文様が彫り込まれ、力強い原始の美が感じられる。棟方は「木の魂を生み出したい」、「板の声を聞く」として、自身の作品を「版画」ではなく「板画」と呼び表した。絵を版画にするのではなく、板から絵を生み出したのである。あふれる生命力を表現し続けた棟方の芸業に太古の美の系譜を探った。

展示室H 音に触れる－原初の響きとその形－

鉄の溶断という最小限の加工による素材感を活かした造形表現で知られる金沢健一は、視覚的な造形性と音とを根源的に結びつける彫刻作品を手がけてきた。

鉄板を不規則に溶断し、ひび割れが生じたかのような形状を見せる〈音のかけら〉のシリーズや鉄板を振動させることにより生じる音の痕跡を見ることのできる〈振動態〉のシリーズを紹介しながら、金沢の鉄を素材とする音と形の原初的な響きや造形の中に、縄文時代の精神世界との共鳴を見出す。

展示室J 物と大地の魂－小野忠明・忠弘

弘前市出身の小野忠弘は廃品を利用したジャンク・アートの第一人者として、ヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、世界的にも高く評価された前衛のアーティスト。福井県の三国町に居を定め、教鞭をとるかたわら、古美術や考古学にも造詣が深く、同地の文化財審議委員などもつとめていた。

小野忠弘の兄の小野忠明もまたアーティストであると共に、考古学者として様々な発掘に携わった。青森市に居をさだめた戦後は、当美術館周辺の近野遺跡の発掘調査などにも携わっているが、戦前は、当時日本の併合下にあった朝鮮半島で発掘調査に取り組んでいた。高句麗壁画などの発掘の経験は、

戦後の抽象的な版画作品の地を思わせるような独自の色彩などに反映している。

ともに考古学を愛した兄弟が大地に見出した魂の表現を18点の作品で紹介。

展示室K 儀礼としての身体－工藤哲巳と縄文

工藤哲巳は五所川原出身の画家工藤正義の長男として生まれ、戦後の日本美術に新しい流れをつくった「反芸術」のホープとして活躍した。

工藤は晩年、自身のルーツとしての津軽にこだわり、縄文をテーマとした作品も制作しているが、初期の作品から一貫してみられる土俗性、装飾性と、グロテスクな表現の奥に感じられる、宗教的と思える透徹した精神性には、彼の中の縄文の遺伝子の存在を強く感じさせる。工藤の約15点の代表作がならぶ空間に、三内丸山遺跡からの出土品を点在させながら、その類縁性を浮彫にする。

展示室L 森とカオスの使者たち－成田亨と高山良策

戦後の日本文化が生み出したユニークな造形表現である成田亨のウルトラ怪獣たちは、「コスモス（秩序）」を体現するヒーロー、ウルトラマンと対比され、より荒々しく原初の力にみちた「カオス（混沌）」を体現する存在としてデザインされた。成田は後に中央の権力におわれた「まつろわぬもの」としての鬼の研究に没頭する。

また、成田のデザインを着ぐるみとして立体化したシュルレアリスムの画家、高山良策は、特撮怪獣の仕事を手がけて以降、異形の人物や事物が登場するSF的な作品を描いているが、いくつかの作品では縄文をテーマにし、森の中、太古の儀礼を行う異形の集団として描いている。

戦後、経済が復興し、発展とともに、社会が急速に変貌していく中で、縄文の造形がかきたてた様々な夢想は、物質文明へのアンチテーゼであり、また失われていく野性への郷愁として、成田や高山の造形に影響をあたえているのではないかな。

成田亨の20点の怪獣デザイン画と高山良策の2点の油彩画を三内丸山遺跡からの出土品とともに展示。

【小企画1】今和次郎展関連企画

展示室M, N 林丈二「採集放屁」

マンホールの蓋や狛犬の尾のデザイン研究から切符のパンチ屑、靴底に挟まった小石の収集まで、林丈二が町の中で発見し、収集・研究してきた成果を実際のモノや写真、イラスト等で紹介する林丈二的“現代版”考現学展。

【小企画2】×Aプロジェクト

展示室P, Q 中野渡尉隆「星・雪・水蒸気」

現代社会に対する高い批評性をもつ逆走バイク「パイドロス」(1994年)で知られる十和田市出身の現代美術家・中野渡尉隆(やすたか)。水を用いて画面に複雑なマチエールを作る2010年のシリーズ『WATER DROPLETS』と最新作の絵画によるイ

インスタレーション『星・雪・水蒸気』を展示。

- その他常設展示（夏のコレクション展より引き続き展示）
アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画
展示室 F 奈良美智：「Hula Hula Garden」、「ニュー・ソウルハウス」
展示室 G 寺山修司：青少年のための寺山修司入門
展示室 O リチャード・ロング：白神山地を歩く
展示室 I 斎藤義重：思考する板

冬のコレクション展：「追悼 工藤甲人」「小島一郎：都市と地方のはざままで」

2011年12月17日（土）－3月25日（日）

開催日数：90日間

【特集】縄文 / 創造の原点から
「秋のコレクション展」より引き続き展示

【小企画 1】追悼 工藤甲人

展示室 M, N 追悼 工藤甲人

第一章 聖鳥・枯葉・冬蝶

故郷、津軽を創造の源泉として独自の作品世界を築き、日本画に斬新な表現を切り開いた工藤甲人。今年7月、96歳の誕生日を迎える前日に逝去するまで、その創作意欲は衰えなかったという。

弘前の農家に生まれ、身近な自然の小さな草花や生き物、或いは家の中の畳の目や壁のシミをじっと見つめて想像の世界に遊び、詩や文学に熱中した少年は、やがて画家を目指して上京し、働きながら絵を学んで新進画家として頭角を現す。戦争により召集を受け、戦前の作品は失われているが、終戦後、故郷で農作業に従事しながら再出発を期して創作を再開する。工藤は生前、かたつむりに心を寄せ、殻を背負って急がず慌てず、しかし確実に前進して自ら退くことのない姿に自身を重ねて、アトリエを〈蝸牛居〉と名付けていた。80年近くに及ぶ画業のなかで生み出された、夢と覚醒のはざまを漂う美の世界を画家自身の言葉とともに紹介する。

第二章 春を待つ

工藤は、しばしば「闇」について語っている。心の深いところに横たわる「闇」。「底なし沼のような」、或いは心の中に沈んでいる「混沌とした湖」のような領域の底に横わたる「何とも得体のしれないもの」などと表現されるそれは、虚ろな暗闇ではなく、創造の源となる「原初の闇」ともいえる。闇から生まれたイメージを光の中へ解き放ち、心の奥から生じてきたものを一度自然の中へと送り出して育み、再び自分の元に帰ってきたそれらを紙の上に実体化させる。そこから工藤の創作が始まる。

工藤は又、深い雪の中で長い冬に耐えながら春を待ち、春を恋う想い、そして春の訪れに感じる生命が湧き上がるような喜びを繰り返して語っている。

代表作の一つである四季四部作が、「春」ではなく「冬」から始まっているように、工藤の作品は、北国に生まれた画家の精神に深く刻まれた冬ごもりの記憶、喜びの春を待つ心から生み出されたものなのだ。

出品点数：日本画、小下図等 約15点

【小企画 2】小島一郎：都市と地方のはざままで

展示室 P, Q 小島一郎：都市と地方のはざままで

近年全国的な注目を集めている青森市出身の写真家・小島一

郎。遺族から当館に寄託されている3,000点以上におよぶ作品と資料の中から代表作を選び出し、小島一郎の生涯の活動を展観。また、今回は青森市教育委員会のご協力を得て、写真家の第二回個展「凍ばれる」に出品されたパネル写真もあわせて展示。

出品点数：小島一郎オリジナルプリント、名刺大写真のアルバム等 約50点

■その他常設展示（秋のコレクション展より引き続き展示）

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画

展示室 F 奈良美智：「Hula Hula Garden」、 「ニュー・ソウルハウス」

展示室 G 寺山修司：青少年のための寺山修司入門

展示室 O リチャード・ロング：白神山地を歩く

展示室 I 斎藤義重：思考する板

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 23 年度収集美術資料

阿部合成 闘牛 不明 32.0×41.0 板・油彩 寄贈	34.5×67.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 裸婦 不明 24.5×21.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ミイラたち 不明 33.0×24.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 ブランコの道化 不明 110.5×57.7 板・油彩 寄贈	阿部合成 サーカス 不明 50.0×60.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 テーブルの男達 不明 41.0×31.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 流木 不明 24.3×33.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 野仏 不明 55.2×90.3 板・油彩 寄贈	阿部合成 支える 不明 53.0×45.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 菜の花 不明 38.2×46.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 流木 不明 24.3×33.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 メキシコ（人々） 不明 82.5×53.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ちち はは 不明 47.0×63.2 板・油彩 寄贈	阿部合成 人 教会 不明 40.3×29.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 不明 33.0×24.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 風船と道化 不明 61.3×39.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 サーカス 1969 65.0×46.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 サーカス 不明 49.0×17.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 薊 不明 43.0×34.7 板・油彩 寄贈
阿部合成 サーカス（一輪車） 不明 45.0×37.5 キャンバス・油彩（カルトン） 寄贈	阿部合成 ミイラたち 不明 38.0×45.3 板・油彩 寄贈	阿部合成 自画像（絶筆） 1972 45.5×33.5 キャンバス・油彩 寄贈	阿部合成 風景 1950 41.5×32.2 板・油彩 寄贈
阿部合成 空中ブランコ 女 不明 72.0×42.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 樹木 不明 44.0×26.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 シベリアの想い出に 不明 23.6×33.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 自画像 1947 40.5×24.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 空中ブランコ 不明 91.0×53.3 キャンバス・油彩 寄贈	阿部合成 メキシコにて 1964 44.8×53.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 樹木 不明 21.3×41.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 赤いマフラーの女 不明 50.0×23.5 板・油彩 寄贈
阿部合成 野ざらし A(軍歌) 不明	阿部合成 高尾にて 不明 53.5×46.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 キリスト 不明 38.0×45.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 高尾にて 不明 38.3×46.3 板・油彩 寄贈

阿部合成 街の女（メキシコにて） 不明 41.0×25.3 板・油彩 寄贈	阿部合成 船 不明 44.6×53.4 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 不明 18.0×14.5 キャンバス・油彩 寄贈	阿部合成 花咲く野 不明 20.2×24.0 紙・パステル 寄贈
阿部合成 猫 1953 27.0×44.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 薊 1971 22.8×16.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 裸婦 不明 33.5×24.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 赤い建物 不明 8.8×14.0 紙・パステル 寄贈
阿部合成 地藏 1956 43.7×28.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 不明 33.3×24.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 顔 不明 23.0×15.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 煙突のある風景 不明 5.0×14.0 紙・パステル 寄贈
阿部合成 赤い猫 不明 33.3×50.7 板・油彩 寄贈	阿部合成 バーにて 不明 31.4×24.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 馬 不明 24.5×33.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 風景4点組 不明 紙・パステル?水彩 不明 寄贈
阿部合成 よいどれ 1948 51.7×65.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 不明 22.8×15.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 麦 不明 33.5×24.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 あやつり人形B 不明 64.5×45.0 紙・リトグラフ 寄贈
阿部合成 闘牛 不明 33.3×45.6 板・油彩 寄贈	阿部合成 メキシコにて 田舎 不明 33.5×24.1 板・油彩 寄贈	阿部合成 サーカス 1947 38.0×6.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 闘牛 不明 33.0×66.8 紙・リトグラフ 寄贈
阿部合成 停車場 不明 23.7×33 ポールドキャンバス・油彩 寄贈	阿部合成 樹立 不明 46.0×38.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 道化 不明 22.7×15.7 板・油彩 寄贈	阿部合成 猫 不明 34.0×61.0 紙・リトグラフ 寄贈
阿部合成 樹木 不明 38.0×46.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 猫 1971 15.6×22.6 キャンバス・油彩 寄贈	阿部合成 曲芸 1969 16.0×23.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 あやつり人形C 不明 60.0×41.0 紙・リトグラフ 寄贈
阿部合成 闘牛 不明 31.0×41.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 不明 23.0×16.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 樁 不明 66.3×34.0 板・油彩 寄贈	阿部合成 船 不明 42.0×63.0 紙・リトグラフ 寄贈
阿部合成 店じまい（メキシコ） 不明 51.3×30.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 ピエロ 1969 17.0×12.8 板・油彩 寄贈	阿部合成 鯰 不明 10.7×18.5 板・油彩 寄贈	阿部合成 あやつり人形A 不明 57.0×43.0 紙・リトグラフ 寄贈

上田薫 カップのアイスクリーム 1974 162.1×130.3 キャンバス・アクリル 寄贈	郭徳俊 クリントンIIと郭 1997 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	キャンバス・アクリル、和紙、古文書 寄贈 村上善男 R系r 圏 78-1 1978 130.5×193.8 キャンバス・油彩 寄贈	村上善男 積空 5.5 1979 112.0×145.7 キャンバス・アクリル 寄贈
上田薫 フライドエッグB 1975 130.3×162.1 キャンバス・油彩、アクリル 寄贈	郭徳俊 ブッシュ 2001と郭 2001 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 慶安三年五月三日横町算盤屋久兵衛宅出火 萬治二年瓦ヶ町に釘打ち 1992 227.5×181.8 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈	村上善男 積空ワム 1979 161.4×130.7 キャンバス・アクリル 寄贈
上田薫 シャボン玉C 1979 130.3×162.1 キャンバス・油彩、アクリル 寄贈	郭徳俊 ブッシュIIと郭 2005 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 n階微分I 1961 229.6×48.0 合板・新聞紙型、注射針、フィルム保護ロー ル紙等 寄贈	村上善男 ヴァグースh 1955 65.7×90.7 キャンバス・油彩 寄贈
上田薫 スプーンのジェリーA 1989 130.3×162.1 キャンバス・油彩 寄贈	郭徳俊 オバマと郭 2009 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 津軽・常盤村久井名館京極に釘打ち、十川 のはんらん 1994 193.5×130.6 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈	村上善男 津軽・赤倉園釘打之圖參拾号 1996 91.5×72.8 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈
上田薫 サラダA 2006 181.8×227.3 キャンバス・油彩 寄贈	松本英一郎 さくら・うあし 1991 189.0×257.5 油彩・キャンバス 寄贈	村上善男 津軽・常盤村久井名館京極に釘打ち（水木 の交差） 1994 162.0×130.5 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈	村上善男 津軽・赤倉山周辺釘打之圖牡丹紅炮弹連発 1996 91.3×72.8 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈
郭徳俊 カーターと郭 1977 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 題名不詳 1961 227.6×45.7 合板・新聞紙型、注射針、フィルム保護ロー ル紙等 寄贈	村上善男 津軽・十腰内赤倉澤釘打之圖 三枚組（右） 1996 161.8×130.8 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈	村上善男 鹽景之内迷圖寒澤雨期入圖 2000 130.2×97.7 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈
郭徳俊 レーガンIと郭 1981 72.7×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 津軽、弘前寒澤に釘打之圖（甲圖） 1999 161.7×130.5 キャンバス・アクリル、和紙、古文書 寄贈	村上善男 津軽・大石神社朱一文字（甲） 1997 130.4×162.2 キャンバス・アクリル・和紙・古文書 寄贈	村上善男 鹽ヶ澤 objet の漂着（8'90） S 島との交信 1990 91.0×61.4×10.5 流木・縄・麻布等 寄贈
郭徳俊 レーガンIIと郭 1985 74.0×54.3 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 津軽園赤倉山系赤倉神社周辺五拾四柵岫之 圖 1996 181.6×227.5 キャンバス・アクリル、和紙、古文書 寄贈	村上善男 R系r 圏（78-2） 1978 161.5×130.5 キャンバス・アクリル 寄贈	村上善男 車力村 objet の漂着・參 1991 89.0×58.8×11.5 古文書・和紙・木・麻布・墨壺・油彩等 寄贈
郭徳俊 ブッシュと郭 1989 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 津軽・十腰内赤倉澤釘打圖 三枚組（中） 1996 161.3×130.7 キャンバス・アクリル、和紙、古文書 寄贈	村上善男 R系 18674 1974 161.5×130.4 キャンバス・アクリル 寄贈	村上善男 村上善男 1991 89.0×58.8×11.5 古文書・和紙・木・麻布・墨壺・油彩等 寄贈
郭徳俊 クリントンIと郭 1993 72.8×51.5 紙・セリグラフ 寄贈	村上善男 津軽・十腰内赤倉澤釘打之圖 三枚組（左） 1996 161.7×130.7	村上善男 R系 18674 1974 161.5×130.4 キャンバス・アクリル 寄贈	村上善男 鹽ヶ沢・帯織衣の漂着 7 不明 90.5×44.5×14.0 古文書・漂流物・測量ボール・麻布等 寄贈

村上善男 鯨ヶ沢・帯緋衣の漂着 16 1989 46.5×46.5×9.0 木・古文書・紐等 寄贈	斎藤真一 「お春誓女物語」よりヴァイオリンひき 1982 29.3×39.7 紙、エッチング 寄贈
斎藤真一 ねぶた 1963 72.7×53.0 キャンバス・油彩 寄贈	斎藤真一 「越後誓女日記」より雪原の朝 1982 29.7×39.6 紙、エッチング 寄贈
斎藤真一 愁い(弥三郎の嫁) 1974 53.0×40.9 キャンバス・油彩 寄贈	斎藤真一 「北国」シリーズより筒谷の女 1983 40.7×31.2 紙、エッチング 寄贈
斎藤真一 津軽三下がり 1974 31.8×40.9 キャンバス・油彩 寄贈	斎藤真一 桜花 1972 35.8×27.9 紙、多色木版 寄贈
斎藤真一 雪の日(講を終えて) 1978 40.9×60.6 キャンバス・油彩 寄贈	斎藤真一 髪結い 1972 35.8×28.8 紙、多色木版 寄贈
斎藤真一 ライムライト 1984 70.7×50.5 紙、エッチング 寄贈	斎藤真一 関連資料(ポスター2、書籍) 不明 不明 不明 寄贈
斎藤真一 蜂女 1985 64.2×47.5 紙、エッチング 寄贈	
斎藤真一 「明治の女」シリーズより隅田川 1983 40.7×31.7 紙、エッチング 寄贈	
斎藤真一 「越後誓女日記」より高田杉本家 1985 45.6×39.8 紙、エッチング 寄贈	
斎藤真一 「越後誓女日記」より虞美人草 1984 31.5×40.0 紙、エッチング 寄贈	

美術資料貸出状況

「ウルトラマン・アート！」展

貸出先

- ・鹿児島市立美術館
- ・北海道新聞社

展示施設（会期）

- ・鹿児島市立美術館（11/3/30－5/8）

貸出点数：20

作品名

- ・成田亨「アイロス星人」
- ・成田亨「イカルス星人イラスト」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田亨「カネゴン初稿」
- ・成田亨「ガラモン決定稿」
- ・成田亨「キーラ」
- ・成田亨「キングジョー決定稿」
- ・成田亨「グリーンモンス決定稿」
- ・成田亨「ゲスラ決定稿」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「シーボーズ」
- ・成田亨「ゼットンイラスト」
- ・成田亨「セミ人間頭部」
- ・成田亨「ゾフィーイラスト」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「ワイルド星人」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊セット（ホーク1号発進口）」

棟方志功 祈りと旅

貸出先

- ・朝日新聞社

展示施設（会期）

- ・香川県立ミュージアム（11/4/9－5/15）
- ・福岡県立美術館（11/5/26－7/3）
- ・愛知県美術館（11/7/9－9/4）

貸出点数：1

作品名

- ・棟方志功「八甲田山麓図」

アートで虫むしとびきりコラボ大作戦

貸出先

- ・秋田県立近代美術館

展示施設（会期）

- ・秋田県立近代美術館（11/4/23－7/13）

貸出点数：3

作品名

- ・鷹山宇一「海濱の花」
- ・工藤甲人「夢と覚醒」
- ・工藤甲人「虫の宿」

東北新幹線全線開業記念 修羅の画家 阿部合成展 第2弾

貸出先

- ・青森市中世の館

展示施設（会期）

- ・青森市中世の館（11/6/4－12/6/30）

貸出点数：30

作品名

- ・阿部合成「田園」
- ・阿部合成「娘の顔」
- ・阿部合成「声なき人々の群れ（A）」
- ・阿部合成「声なき人々の群れ（B）」
- ・阿部合成「埋められた人々（B）」
- ・阿部合成「インデオたちの祈り（右）」
- ・阿部合成「マリヤとインディオ」
- ・阿部合成「マリヤ」
- ・阿部合成「埋められた人々（A）」
- ・阿部合成「農夫」
- ・阿部合成「フランコの道化」
- ・阿部合成「キリスト」
- ・阿部合成「闘牛」
- ・阿部合成「道化.前駆する」
- ・阿部合成「海辺にて（青森）」
- ・阿部合成「津軽野」
- ・阿部合成「曲芸」
- ・阿部合成「海を見る詩人」
- ・阿部合成「ピエロ」
- ・阿部合成「田代高原」
- ・阿部合成「自画像」
- ・阿部合成「蓮池」
- ・阿部合成「あざみ」
- ・阿部合成「猫と柳」
- ・阿部合成「海辺」
- ・阿部合成「すすき」
- ・阿部合成「野火」
- ・阿部合成「自画像」
- ・阿部合成「夫人像」
- ・阿部合成「黒い牛」

菊畑茂久馬回顧展 戦後／絵画

貸出先

- ・福岡市美術館
- ・長崎県美術館

展示施設（会期）

- ・福岡市美術館（11/7/9－8/28）

貸出点数：1

作品名

- ・菊畑茂久馬「ルーレット」

地域総合展「十和田湖・八甲田山」

貸出先

- ・青森県立郷土館

展示施設（会期）

- ・青森県立郷土館（11/7/15－9/11）

貸出点数：1

作品名

- ・鳥谷幡山「十和田湖十二題」

「ウルトラマン・アート！」展

貸出先

- ・福井市美術館
- ・北海道新聞社

展示施設（会期）

- ・福井市美術館（11/7/16－8/21）

貸出点数：28

作品名

- ・成田亨「アボラス」
- ・成田亨「アントラー決定稿」
- ・成田亨「イカルス星人イラスト」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「エレキング」
- ・成田亨「ガヴァドン成獣」
- ・成田亨「ガンダー」
- ・成田亨「キングジョー初稿」
- ・成田亨「ケムラー」
- ・成田亨「ゴドラ星人」
- ・成田亨「ゴモラ決定稿」
- ・成田亨「ザラブ星人」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「スカイドン」
- ・成田亨「ゼットン」
- ・成田亨「ダダ」
- ・成田亨「チブル星人」
- ・成田亨「パニラ」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・成田亨「ブラチク星人」
- ・成田亨「ベスター」
- ・成田亨「ベル星人」
- ・成田亨「ボール星人」
- ・成田亨「ミクラス」
- ・成田亨「メトロン星人」
- ・成田亨「メフィラス星人」

「親子で楽しむ美術館 集まれ！おもしろどうぶつ」展

貸出先

- ・横須賀美術館

展示施設（会期）

- ・横須賀美術館（11/7/16－12/8/28）

貸出点数：1

作品名

- ・奈良美智「White Riot」

今純三と考現学展

貸出先

- ・青森県立郷土館

展示施設（会期）

- ・青森県立郷土館（11/10/28－11/27）

貸出点数：11

作品名

- ・今純三「静物」

- ・今純三「(七) 吉原仲之町」

- ・今純三「(八) 宮」

- ・今純三「(九) 町家」

- ・今純三「(十) 野原」

- ・今純三「(十一) 庭」

- ・今純三「(十二) 公園」

- ・今純三「(十三) 洋室」

- ・今純三「(十四) 腰浪」

- ・今純三「風景」

- ・今純三「女性像」

工藤甲人追悼展

貸出先

- ・弘前市博物館

展示施設（会期）

- ・弘前市博物館（11/10/29－11/27）

貸出点数：16

作品名

- ・工藤甲人「青雲」
- ・工藤甲人「光昏」
- ・工藤甲人「北海のアフロディーテ」
- ・工藤甲人「永日」
- ・工藤甲人「明・暗」
- ・工藤甲人「山野光礼讃」
- ・工藤甲人「秋の蝶」
- ・工藤甲人「杉」
- ・工藤甲人「荊棘」
- ・工藤甲人「夢と覚醒」
- ・工藤甲人「虫の宿」
- ・工藤甲人「蓮」
- ・工藤甲人「渴仰（春）」
- ・工藤甲人「休息（冬）」
- ・工藤甲人「野郷仏心（秋）」
- ・工藤甲人「化生（夏）」

「ウルトラマン・アート！」展

貸出先

- ・茨城県近代美術館
- ・長崎県美術館

展示施設（会期）

- ・茨城県近代美術館（11/11/3－12/1/5）

- ・長崎県美術館（12/1/27－3/31）

貸出点数：22

作品名

- ・成田亨「アイロス星人」
- ・成田亨「ウー決定稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン決定稿 B案」
- ・成田亨「ウルトラマン」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊隊員コスチューム」
- ・成田亨「カネゴン決定稿」
- ・成田亨「ガボラ」
- ・成田亨「ガラモン初稿」
- ・成田亨「ギャング」
- ・成田亨「キングジョー決定稿」
- ・成田亨「ゴモラ初稿」
- ・成田亨「ゴルドン」
- ・成田亨「シーボーズ」

- ・成田亨「ゼットンイラスト」
- ・成田亨「ドドンゴ」
- ・成田亨「ドラコ決定稿」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「ビートル2号」
- ・成田亨「ピラ星人決定稿」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「レッドキング」

作品名

- ・今純三「市日」
- ・今純三「風景」
- ・今純三「奥入瀬溪流（獅子岩附近）」

青森県立美術館コレクション 展 北の異才たち

貸出先

- ・バルコミュージアム

展示施設（会期）

- ・バルコミュージアム（11/12/17-12/1/29）

貸出点数：27

作品名

- ・工藤哲巳「あなたの肖像 1970-1974」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・工藤哲巳「あなたの肖像」
- ・村上善男「津軽圏、弘前、品川町胸肩神社前線釘打圖」
- ・村上善男「津軽、赤倉澤支脈釘打圖」
- ・工藤哲巳「『脱皮』の記念品・郷愁病用・あなたの居間に」
- ・奈良美智「Last Right」
- ・奈良美智「Channel」
- ・成田亨「ウルトラセブン頭部」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「カネゴン初稿」
- ・成田亨「ゴドラ星人」
- ・成田亨「ザラブ星人」
- ・成田亨「ダダ」
- ・成田亨「チブル星人」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・成田亨「ベガッサ星人」
- ・成田亨「ベスター」
- ・棟方志功「赤富士の柵」
- ・奈良美智「Lampflowers」
- ・棟方志功「鷺鷥の柵」
- ・棟方志功「青森山之神図」
- ・棟方志功「御吉祥大辨財天御妃尊像図」
- ・奈良美智「続いてゆく道に」
- ・斎藤義重「青の構成」
- ・寺山修司「天井棧敷公演ポスター、チケット等一式」
- ・土井典「大山デブ子人形」

清水晃・吉野辰海展

貸出先

- ・埼玉県立近代美術館

展示施設（会期）

- ・埼玉県立近代美術館（12/2/11-3/25）

貸出点数：1

作品名

- ・吉野辰海「MONO-KU」

今和次郎 採集講義

貸出先

- ・パナソニック汐留ミュージアム

展示施設（会期）

- ・パナソニック汐留ミュージアム（12/1/14-3/25）

貸出点数：3

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成23年度 普及プログラム

1 一般プログラム

(1) ワークショップ「バーチャルリアリティマップをつくる」
美術館建築の見どころ等を知る解説ツアーを体験したあと、デジタルカメラを片手に美術館を散策し、バーチャルリアリティマップをつくるワークショップを開催した。

日時：2011年5月14日(土)、5月15日(日) 各日10:00-16:00

場所：美術館内

講師：小久保温氏（青森大学ソフトウェア情報学部准教授）

対象：一般（高校生以上）

定員：各日10名

料金：無料

参加者数：15名

(2) フライデー・アートナイト

美術館の閉館後に学芸員のギャラリートークつきで展覧会を楽しめるプログラムを7月から12月の各月1日開催した。

時間：各日18:00-19:30

場所：青森県立美術館展示室、カフェ

講師：美術館スタッフ

対象：一般

定員：各日20名

料金：各展覧会観覧料

①2011年7月22日 常設展関連「成田亨の怪獣デザイン、その創作の秘密」

参加者数：3名

②2011年8月26日 常設展関連「シャガールのアレコと私のアレコ」

参加者数：9名

③2011年9月30日 企画展関連「光を描く印象派展-美術館が解いた謎をもう少し」

参加者数：20名

④2011年10月21日 常設展関連「縄文／創造の原点から」

参加者数：6名

⑤2011年11月25日 企画展展覧関連「考現学をめぐって」

参加者数：4名

⑥2011年12月23日 常設展関連「コンテンポラリーアートの最先端」

参加者数：5名

(3) 朗読会「on-doc. (オンドク)」

女優・歌手として活動を続ける原田知世。2012年デビュー30周年を迎える彼女にとって、はじめての試みとなる朗読会

「on-doc. (オンドク)」を行った。

デビュー25周年記念『music & me』、2009年リリース『eyja』のアルバムプロデュースを手がけ、また、音楽ワークショップなどを開催し、当館とも関わりの深い、伊藤ゴローとのコラボレーション。

日時：2011年12月25日(日)

開場：18:00 公演：18:30-19:15

場所：アレコホール

出演：原田知世、伊藤ゴロー

定員：200名

料金：無料（ただし常設展の観覧チケットが必要。）

申込方法：12月6日より電話（9:30-17:00）にて受け付け。

定員になり次第締め切り。

参加者数：200名

(4) アウトリーチプログラム

①「伊藤二子と八戸」展

・伊藤二子 公開制作・展示

1926年八戸市に生まれ、同市で長年暮らしてきた伊藤二子は、小学校の教員を務めた後、1950年代半ばから絵を描き始めた。いかなる画壇にも所属することなく、一貫して、キャンパスにナイフのみを用いて「非具象」の絵画を制作し、1972年以降は、毎年のように新作での個展を開催している。2007年には東京での個展を初めて開催（銀座井上画廊）し、批評家たちから高い評価を得た。近年は八戸市の市民アートサポートグループ、イカノフ（代表：豊島重之）の企画展にも参加。現在も精力的な活動を続けている。

伊藤の青森市での初めての大規模な個展となる今回の展示では、これまでの傑作を一挙に公開しながら、キャンパスを舞台に、ナイフで「絵」を「掻／欠」くことで半世紀にわたり既成の価値観と闘い続けてきた「絵かき・伊藤二子」を浮かび上がらせる。

また、作家所蔵の資料によって、画家の人生をたどりながら、八戸市の文化のあゆみを展覧する試みや、大作に挑む現場を公開する公開制作を行う。

日時：2011年4月29日(金) - 6月12日(日)

公開制作：2011年4月29日(金) - 5月8日(日) 10:00-15:00

場所：コミュニティギャラリー

料金：無料

観覧者数：3,803名

・アーティストトーク

日時：2011年5月3日（火） 14：00－15：30

場所：コミュニティギャラリー

料金：無料

参加者数：60名

・ワークショップ 伊藤二子「二子さんといっしょに絵をかこう」

伊藤二子さんの作品を見ながら感想を話しあったり、牛乳パックで作ったヘラ、という少し変わったもので、絵をかいてみるワークショップ。伊藤二子さんの展覧会会場で行われ、直接会話を楽しむことで、参加者はアーティストの世界にふれることができた。

日時：2011年9月17日（土） 13：30－16：30

場所：八戸ポータルミュージアム はっち シアター 1

講師：伊藤二子

対象：小学生

定員：15名

料金：無料

参加者数：11名

②ワークショップ 中野渡尉隆「地球上の人体一部分」

自分の「指」や「鼻」や「耳」を型どり、石膏オブジェを制作した。

日時：2011年10月23日（日）

場所：十和田市現代美術館

講師：中野渡尉隆

対象：小学生以上～一般

定員：40名

料金：無料

参加者数：33名

③アウトリーチプログラム成果展示

日時：2011年12月20日－2012年1月15日

場所：青森県立美術館展示室 A、B

料金：無料

観覧者数：2,155名

(5) 障害者アート+縄文アート

特別展「Touch the Art」展

三内丸山遺跡に隣接する青森県立美術館は、「縄文」という創造の原点とともに、現代の芸術表現を見つめることのできる場所にある。本展ではそうした場所性を背景に、「手のわざ」によって作られた、触覚的な造形性を持つ縄文の土器や土偶と、現代の彫刻という2つの時代の多彩な作品について、見るだけでなく、手で触れることのできる展示を行い、縄文と現代という時間軸を超えた視点から、造形表現の魅力を体感していただいた。また、視覚、触覚、聴覚など、様々な感覚を使って作品鑑賞をお楽しみいただけるこの展覧会は、視覚等に障害のある方も芸術文化に親しむことのできる機会となった。

日時：2011年10月15日（土）－11月6日（日）

場所：ワークショップエリア、展示室 H

料金：無料

観覧者数：4,150名

・ワークショップ「縄文アート作品制作」

参加者一人ひとりが持つ「縄文」のイメージを粘土で成形し、金山焼の釜で焼成。それを組み合わせて共同アート作品を制作し「Touch the Art」展にて展示した。

日時：2011年8月21日（日） 13：00－17：00

場所：創作ヤード

講師：津軽金山焼窯業共同組合 野呂理紗子ほか、県教育庁文化財保護課

対象：小学5年生以上

定員：50名

料金：無料

参加者数：55名

・金沢健一トーク&パフォーマンス：「音と形の世界」

鉄板を素材とする彫刻作品と、その作者・金沢健一氏とのかかわりによって生じる、音と形の世界をお楽しみいただいた。

日時：2011年10月15日（土） 10：00－11：00、14：00－15：00

場所：展示室 H

講師：金沢健一（彫刻家）

料金：無料

参加者数：120名

・金沢健一ワークショップ：「音のかけらをつくる」

鉄の溶断を体験しながら〈音のかけら〉のミニチュア版を作り、当館の創作ヤードで鉄が奏でる音の響きを楽しんだ。

日時：2011年10月16日（日） 10：00－16：00

場所：ワークショップ B、創作ヤード

講師：金沢健一（彫刻家）

対象：小学3年生－大人

定員：10名

料金：3,000円（材料費）

参加者数：3名

・寺田栄ギャラリートーク：「彫刻作品と触覚について」

繊細な溝やなだらかな起伏が彫り込まれた、独特の質感をもつ御影石の彫刻について、作者・寺田栄氏が解説した。

日時：2011年10月15日（土） 11：00－12：00

場所：ワークショップ前展示スペース

講師：寺田栄（彫刻家）

料金：無料

参加者数：20名

・タッチ&トーク：棟方志功の板画表現にふれる

棟方志功の板画をもとに作成した「触れる絵画」を用いたプログラム。視覚に障害のある方を主な対象として実施した。

日時：2011年10月17日（月）、10月20日（木）、10月31日（月）、

11月3日(木・祝) 各回14:00-15:30

場所: ワークショップA

協力: 青森大学ソフトウェア情報学部

対象: 一般 各回10名

参加料: 無料

参加者数: 32名

・青森県立郷土館 移動博物館: 「体感! 共感! 表現者としての縄文人」

縄文土器に触れたり、文様づくりを体験したりすることをとおして縄文人の造形表現の魅力に迫ります。

日時: 2011年10月23日(日) 11:00-12:00

場所: ワークショップB

講師: 豊田雅彦(青森県立郷土館主任研究主査)、伊藤由美子(同学芸主査)、佐藤琢(同研究主査)

対象: 一般20名

参加者数: 6名

(6) A-FACTORY 中の青森県立美術館

青森駅前「A-FACTORY」において、ワークショップやトークショーを開催し、美術館に来たことがない層に対して美術館の魅力伝えた。

①「県立美術館の建築の魅力」

ケンピはなぜ真っ白なの? なぜ迷路みたいな空間なの? 青木淳設計による青森県立美術館の建築的特徴についてお話しした。

日時: 2011年7月15日(金) 19:00-20:00

講師: 工藤健志(青森県立美術館学芸員)

料金: 1,500円(ドリンク+一品付)

定員: 20名

参加者数: 23名

②「青森県立美術館、サインの魅力」

水平、垂直、斜め45度の3つのルールで作成された美術館のフロント。菊地敦己による美術館のVI(ビジュアル・アイデンティティ)計画についてお話しした。

日時: 2011年8月19日(金) 19:00-20:00

講師: 乗田菜々美(青森県立美術館エディタール)

料金: 2,000円(ドリンク+一品付)

定員: 20名

参加者数: 15名

③「企画展、印象派展」

開館5周年を迎えた青森県立美術館において開催した、開館5周年記念「光を描く 印象派展」の見どころについてお話しした。

日時: 2011年9月9日(金) 19:00-20:00

講師: 細矢久人(青森県立美術館エディタール)

料金: 2,000円(ドリンク+一品付)

定員: 20名

参加者数: 12名

④「ペーパークラフトでロボットを作ろう」

ペーパークラフト「スーパーロボット アムジー2」を作るワークショップ。子どもから大人まで楽しめる工作教室。

日時: 8月21日(日) 10:00-18:00(時間内参加自由。所要時間1時間。)

講師: 飛内源一郎(アムジー2設計者)

料金: 700円(ペーパークラフト1体、ドリンク+スイーツ付)

参加者数: 50名

⑤レクチャー「今和次郎と考現学」

今和次郎は1923年の関東大震災をきっかけに「考現学」を創始した。一瞬にして廃墟となった東京の町と、復興を目指す人々の姿を目の当たりにし、「今」を記録することの重要性に和次郎は気づいたのだ。そうした考現学の起こりと、和次郎の思想についてお話しした。

日時: 2011年11月4日(金) 19:00-20:00

講師: 工藤健志(青森県立美術館学芸員)

料金: 2,000円(ドリンク+一品付)

定員: 20名

参加者数: 6名

⑥レクチャー「考現学の現在」

赤瀬川原平や藤森照信らの「路上観察学会」や、テレビの旅番組、グルメ番組、ワイドショーの芸能レポートなどは考現学の手法に多くをよっている。そうした考現学が現代に与えた影響の大きさを話しした。

日時: 2011年11月11日(金) 19:00-20:00

講師: 工藤健志(青森県立美術館学芸員)

料金: 2,000円(ドリンク+一品付)

定員: 20名

参加者数: 8名

⑦ワークショップ「考現学採集」

考現学的な視点によって、実際にA-FACTORYや青森駅前を歩き、面白いもの、楽しいものを集めてみるワークショップ。

日時: 2011年11月18日(金) 14:00-16:00

講師: 乗田菜々美(青森県立美術館エディタール)

料金: 500円(ドリンク+スイーツ付)

定員: 20名

参加者数: 8名

⑧ワークショップ「マリメッコでファブリックパネルをつくる+スイーツ試食会」

企画展「フィンランドの暮らしとデザイン」展のプレワークショップ。

日時: 2012年3月28日(水) 10:00-11:30

講師: あおもりインテリアコーディネーター倶楽部

料金: 1,000円

定員: 15名

参加者数: 15名

(7) 震災復興祈念プログラム

①ワークショップ 松村泰三「希望の光」

八戸出身の美術作家・松村泰三さんを迎え、光のひみつがわかるオリジナルキット「光の箱」をつくった。

日時：2011年5月5日（木・祝）10：00－18：00

講師：松村泰三（美術家）

料金：無料

参加者数：200名

②「プレイタイム・カフェ」

美術館のB1Fワークショップエリアを会場として、「プレイタイム・カフェ」をオープン。震災復興を祈念した作品展示や、ミュージアムショップ協力のもとチャリティー販売、ジュースを無料配布するカフェ（会期中の土日のみ）などを行った。またこのエリアにつながる展示室H（馬場のぼる展を開催）を会期中無料開放し、キッズルームとしても使用した。「プレイタイム＝遊び／祈りの時間」の中から生まれるエネルギーを復興の気運につなげる企画。

・展示

美術家松村泰三氏による八戸市での震災復興祈念ワークショップ「希望の光」の成果展示や、青森県内在住のクリエイター佐藤謙行、山口潤による展覧会「EXPA EXPO」を開催。また、絵本や積み木等を準備し、子供が自由に遊べるスペースとしてご利用いただいた。さらに、展示室Hの馬場のぼる展も無料でご覧いただいた。

日時：2011年5月14日（土）－6月12日（日）

場所：ワークショップエリア

料金：無料

・カフェ

会場内に特設カフェをオープンし、「こどもびいる」やりんごジュースなどをお楽しみいただいた（料金無料、各日先着子ども100名様）。会場内ではアートグッズも販売。売り上げの一部を東日本大震災義援金として寄附した。

日時：2011年5月14日（土）－6月12日（日）

協賛：株式会社友研飲料、有限会社ウィロー、片山りんご株式会社、JAアオレン

料金：無料

参加者数：149名

③ワークショップ「ロボットプラモをつくろう」

2010年に開催した「ロボットと美術展」が「2010年美連協大賞・奨励賞」を受賞した記念として、ロボットプラモをつくるワークショップを開催した。また、ロボットと美術展カタログにオマケとして付いていたペーパークラフト「スーパーロボットアムジー2」も特別に準備し、設計者の飛内源一郎さんを迎えた工作教室も開催した。

日時：2011年7月31日（日） 10：00－17：00

場所：ワークショップB

定員：20名

料金：無料

参加者数：37名

④東日本大震災復興支援特別企画「気仙沼／リアス・アーク美術館 / N.E.blood 21：坂本英子」関連シンポジウム「震災と芸術」

日時：2012年3月4日（日）14：00－15：30

パネリスト：山内泰宏（リアス・アーク美術館学芸係長）

岡田卓也（美術家、Neアーティスト協会代表）

坂本英子（美術家）

飯田高誉（青森県立美術館美術統括監）

モデレーター：工藤健志（青森県立美術館学芸員）

場所：展示室B

料金：無料（常設展観覧チケットが必要。）

協力：リアス・アーク美術館、Neアーティスト協会

参加者数：40名

2 創作支援プログラム「オープンアトリエ」

第1土曜日からの一週間を基本として、ワークショップ室を開場する企画。各回テーマを設け実施。美術館スタッフと一緒に行うテーマに沿った制作の他、参加者が自由に道具を持ち込んで、制作場所として使用することもできる。

①「工作強化週間」

日時：2011年6月4日（土）－10日（金）9：30－17：30

参加者数：149名

②「油彩画強化週間」

日時：2011年7月9日（土）－15日（金）9：30－17：30

参加者数：80名

③アーティストによるオープンアトリエ「gedoneutral 光景光景'11」

日時：2011年8月6日（土）－12日（金）9：30－17：30

参加者数：351名

④「油彩画強化週間」

日時：2011年9月3日（土）－9日（金）9：30－17：30

参加者数：279名

⑤アーティストによるオープンアトリエ「橋本尚恣 ドライポイント モノタイプ 私のスタイル」

日時：2011年12月3日（土）－9日（金）10：00－16：30

参加者数：129名

⑥「日本画強化週間」

日時：2012年1月7日（土）－13日（金）10：00－16：30

参加者数：25名

⑦「デザイン強化週間」

日時：2012年2月4日（土）－10日（金）10：00－16：30

参加者数：16名

⑧「シルクスクリーン強化週間」

日時：2012年3月3日（土）－9日（金）10：00－16：30

参加者数：28名

3 展覧会関連プログラム

(1) 印象派展「出前講座」

学校や公民館、福祉団体など県内の各種団体を対象に、美術館スタッフが指定された場所を会場とし、印象派展の内容やその見どころを分かりやすく紹介した。

実施日：2011年6月14日(火)、15日(水)、16日(木)、21日(火)、

22日(水)、23日(木)、28日(火)、29日(水)、30日(木)

対象：県内学校、公民館、福祉団体など

料金：無料

参加者数：193名

(2) 印象派展「夏休み親子ギャラリーツアー」

夏休み期間の火曜日と木曜日、親子を対象に印象派展をわかりやすく解説した。

日時：2011年8月2日(火)、4日(木)、9日(火)、11日(木)、16日(火)、18日(木)

午前の部 11:00-、午後の部 14:00- 各回40分程度

料金：無料(印象派展観覧券が必要)

対象：小学3年生以上の子どもとその保護者

定員：各回20組

参加者数：217名

(3) 印象派展 講演会 1

「西洋美術の宝庫-ヴァルラフ・リヒャルト美術館コレクションの歴史」

日時：2011年7月9日(土) 13:30-15:00

講師：アンドレアス・ブリューム氏(ヴァルラフ・リヒャルト美術館館長)

場所：三内丸山遺跡 縄文時遊館 縄文シアター

料金：無料

参加者数：150名

(4) 印象派展 講演会 2「印象派-絵画を変えた画家たち」

日時：2011年8月14日(日)

講師：東京大学大学院教授 三浦篤氏(展覧会監修者)

場所：アウガ5階 AV多機能ホール

料金：無料

参加者数：100名

(5) 印象派展 講演会 3「絵画をどう見るか-印象派の技法を中心に」

日時：2011年9月17日(土) 13:30-15:00

講師：東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科教授 森直義氏(展覧会コンサヴェイター)

場所：シアター

料金：無料

参加者数：107名

(6) 印象派展「印象派絵画教室-レストラン山崎のランチを楽しみながら」

印象派の画家は、「光」を強く意識し、外で描くことにこだわりを持っていたことから、実際に道具を持って外で絵を描きながら、印象派の秘密に迫るワークショップを開催した。

日時：2011年7月16日(土) 10:00-15:00

場所：ワークショップB、屋外

講師：美術館スタッフ

対象：小学生以上

定員：30名

料金：こども1,000円 大人1,500円(ランチ代)

参加者数：32名

(7) 印象派展 松村泰三「光の箱をつくる」

八戸出身のアーティスト松村泰三さんと光の秘密を探るワークショップを開催した。

日時：2011年8月20日(土) 午前の部 10:00-12:00 / 午後の部 14:00-16:00

場所：ワークショップA

講師：松村泰三氏(アーティスト)

定員：各回30名

料金：無料

参加者数：55名

(8) 印象派展「キットを使った光のワークショップ」

光の科学を学びながら、印象派の秘密に迫ります。

日時：① 2011年9月17日(土) ② 2011年9月18日(日)

③ 2011年9月19日(月・祝) 各日 13:30-15:00

場所：ワークショップB

講師：美術館スタッフ

対象：小学生以上

定員：各回20名

料金：1,000円(材料費)

参加者数：12名

(9) 今和次郎展 南伸坊 × 中村好文トークセッション「今和次郎 考現学の愉しみかた」

今和次郎が提唱した「考現学」を現在実践し続けている路上観察学会の南伸坊氏と、住宅建築家・中村好文氏。2人が路上で観察・収集した写真を見ながら、今和次郎のモノの捉え方や「考現学」の面白さを紹介。今和次郎はどんな人だったのか？今和次郎の魅力に迫った。

日時：2011年10月23日(日) 10:00-12:00

講師：南伸坊(路上観察学会員、エッセイスト) 中村好文(住宅建築家)

場所：弘前中央高校講堂(弘前市)

定員：200人

参加者数：80名

(10) 今和次郎展 朗読+スライド上映会「今和次郎 ことばとまなざし」

和次郎のスケッチ(複写)100点等にて本展を紹介したサテラ

イト展示「今和次郎 今へのまなざし」の会場において、和次郎の著書から抜粋した文章の朗読と、スケッチの上映を行った。

日時：2011年10月19日（水）18：00－18：30「服飾研究」

2011年10月26日（水）18：00－18：30「考現学」

場所：ギャラリー NOVITA（青森市）

定員：各日20人

出演：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

参加者数：41名

(11) 今和次郎展 子ども向けWS「考現学ごっこしよう！」

講師が撮りためた写真を見ながら、「考現学」の視点の持ちかた、その面白さを学んだ後、今和次郎になりきって自分が住む街を歩き、面白いと思ったポイントを撮影するワークショップ。

日時：2011年10月22日（土）、23日（日）13：30－17：00

講師：南伸坊（路上観察学会員、エッセイスト）

場所：22日／ギャラリー NOVITA（青森市）

23日／弘前市まちなか情報センター（弘前市）

定員：各日10人

対象：小学校4年生－中学生

参加者数：12名

平成23年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋創作プログラム、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校の自主企画）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	73	0	2	2	0	0	0
5月	822	0	13	12	1	0	0
6月	949	0	21	16	2	0	3
7月	872	474	21	6	9	4	2
8月	406	440	12	3	5	3	1
9月	2,518	2,990	40	17	19	1	3
10月	629	368	16	8	6	1	1
11月	306	268	12	6	5	1	0
12月	35	0	1	1	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	33	0	4	2	2	0	0
合計	6,643	4,540	142	73	49	10	10

合計 11,183人

出前講座

県内各地の学校に向向き、当館の特徴やコレクション作品にまつわるエピソードの紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲームや、ギャラリートーク体験といった鑑賞活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
1月18日	青森県立青森聾学校	4
1月20日	青森県立弘前聾学校	6
1月23日	深浦町立岩崎中学校	26
1月24日	弘前市立大成小学校	72
1月25日	八戸第一養護学校	10
1月26日	大鰐町立大鰐小学校	75
1月27日	南部町立南部小学校	36
1月30日	八戸市立鮫小学校	77
1月30日	階上町立小舟渡小学校	27
2月1日	つがる市立稲垣西小学校	40
2月2日	田舎館村立田舎館中学校	70
2月3日	鶴岡町立胡桃館小学校	64
2月7日	むつ市立大平小学校	88
2月8日	十和田市立南小学校	129
2月9日	青森市立新城小学校	111
2月10日	青森市立新城小学校	108
2月14日	つがる市立森田小学校	40
2月15日	五所川原市立三輪小学校	48
2月17日	青森市立野内小学校	26
2月17日	青森市立浦町小学校	58
2月21日	十和田市立高清水小学校	24
2月28日	十和田市立南小学校	111

合計 1,250人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、平成23年度には県内10地区の小学校教育研究会図工部会にアートカードを提供し、利用促進を図っている。さらに、当館主催の教職員研修会、県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードを使ったゲームを体験する演習を行った。

貸出し実績：9校

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西 13 番町 2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山 48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、当館主催の研修会、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	7月30日（土）	先生のための鑑賞講座（春・夏・秋・冬）	県立美術館	15
	8月27日（土）			3
県・市町村教育委員会	8月4日（木）	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修（小・中学校） 教職一般 研修講座	県立美術館	51
	7月22日（金）	青森市教育委員会と共催 教職員初任者研修講座		33
	9月27日（火） ～28日（水）	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座 [鑑賞] ～美術館と連携した鑑賞指導の在り方～		31
教育研究団体等と共催	7月25日（月）	南地方小学校教育研究会図工部会 半日研修会	黒石市立北陽小学校	33
	10月1日（土）	上北地方小学校教育研究会図工部会 秋季研修会	県立美術館	10
	10月5日（水）	北五地方小学校教育研究会図工部会	中泊町立中泊小学校	40
	10月12日（水）	弘前造形教育研究会 小教研 1 日研修会	弘前市立青柳小学校	36
	12月28日（月）	上北地方小学校教育研究会図工部会 冬季研修会	十和田市立法典小学校	30
	1月5日（木）	青森市小学校教育研究会図工部会 冬季研修会	県立美術館	40

合計 322人

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成23年度 3月末現在：20人

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、また、児童生徒配付用鑑賞補助資料として、以下のものを作成した。

- 1 スクールプログラムガイドブック（教員用）
- 2 青森県立美術館ガイドブック

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

活動日数：43日

参加人数：延べ554人

(6) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート等）

活動日数：2日

参加人数：延べ20人

募集・登録

募集概要

募集期間：2011年2月25日－3月25日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2011年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：84人（年度末現在）

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月24日（日）10：00－15：00

内容：平成23年度事業概要及び活動内容説明

常設展「コレクションの力・あおもりの力」鑑賞及びギャラリートーク

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント補助）

活動日数：26日

参加人数：延べ66人

(2) 教育普及（レクチャー、ワークショップの運営補助）

活動日数：9日

参加人数：延べ48人

(3) 舞台芸術（コンサート、ダンス上演の補助）

活動日数：15日

参加人数：延べ64人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：27日

参加人数：延べ102人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ (VI) を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ及び年会費

一般会員：3,000円

学生会員：2,000円（学生のためのプログラム）

こども会員：500円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員 A：50,000円

コーポレート会員 B：30,000円

（10月以降入会の場合は各半額）

会員数

（2012年3月31日現在）

一般会員：121人

学生会員：4人

こども会員：10名

特別会員：18人

コーポレート会員 B：1人

計 154人

事業内容（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を2枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を6枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可

- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3～4回、美術館スケジュール等のご案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

パフォーマンスアート

演劇

ドラマリーディング

音楽

演劇

青森県芸術・文化力首都圏発信事業 演劇「津軽」青森県立美術館野外公演

概要

1 事業概要

演劇『津軽』は平成21年度に「太宰治生誕100年記念公演」として、金木町芦野公園特設ステージにおいて、脚本・演出を長谷川孝治が担当し、絶賛された演目である。また、県民の他、首都圏等の演劇関係者から再演を望む声が多く、平成22年度は首都圏（東京都：スペースゼロ）にて上演し、観客動員100%（1,200人）となる人気演目となった。

平成23年度は、青森県の自然・芸術文化の質の高さを、県立美術館から発信するべく、野外公演を実施した。

本公演は2011年3月11日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2ヶ月あまりでの上演であり、家を失い、避難所で生活する方々が大勢いる中で、公演の延期・中止を検討することとなった。

しかしながら、本作品の原作である太宰治「津軽」は、「故郷はいつでもあなたを待っている」という強いメッセージがあり、本作品の上演を通して、震災で犠牲になった方々に対して追悼の意を捧げるとともに、青森県、東北の元気を取り戻すため、復興の第一歩として力強く歩む決意をし、公演続行を決め、被災者への特別公演を併せて実施した。

- ・脚本・潤色・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館
- ・助成：財団法人むつ小川原地域産業振興財団
- ・後援：津軽鉄道（株）、NPOかなぎ元気倶楽部、太宰ミュージアム運営委員会、（社）青森県観光連盟、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森県地域婦人団体連合会、（社）青森県バス協会、（社）青森県タクシー協会、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、河北新報社、朝日新聞青森総局、毎日新聞青森支局、読売新聞青森支局、産経新聞青森支局、日本経済新聞社青森支局、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、エフエム青森（順不同）

2 制作概要

(1) 出演者選考：

2011年に県内俳優の中から指名した者の他、オーディション

を実施し、合格した者を出演俳優として選考。

(2) 稽古

期日：2011年4月11日（月）－4月28日（木）

会場：青森県立美術館シアター、野外特設ステージ

内容：台本に基づいて、台詞覚え演出家の指導の下、舞台上立つ。

(3) リハーサル

期日：2011年4月27日（水）マスコミ向け

4月28日（木）全体リハーサル

※本番と同様のタイムテーブルで実施

内容：音楽・照明も入ったリハーサル

(4) 東日本大震災被災者支援特別公演

期日：2011年4月29日（金）

招待範囲：県内に非難している東日本大震災被災者

3 公演概要

(あらすじ)

変わりゆく時代にあって、変わらない故郷への思い…。

昭和19年、太宰治（村田雄浩）は久しぶりに故郷津軽を旅する。

その旅で太宰はそれまでマイナスのイメージしかなかった津軽に、「そこに住む人々」をとおして新しい価値を見いだす。それは、津軽の人々が持つ「大らかさ」であったり、「優しさ」であったりする。

そして、小説「津軽」をガイドブックに、67年前の太宰を辿り、津軽半島を旅する現代の女性紀行作家（川上麻衣子）。幾人もの太宰への想いが時間を超えて登場し、太宰を追想の過去とせず、今として再生していく。

変わりゆく時代にあって、変わらない故郷への思い……。生活の尊さ、幸福のありかを示し、浮かび上がらせ、10人の少年津島修治が一輪車で登場し、風のように舞い走り抜ける、重層で幻想的な舞台となった。

日時：

特別公演（被災者招待）

2011年4月29日（金）17：00－

一般公演

2011年4月30日（土）18：30－

5月1日（日）18：30－

5月3日（火）18：30－

5月4日（水）18：30－

5月5日（木）18：30－

場所 野外特設ステージ（八角堂付近トレンチ内）

定員：1公演400席（全席自由）

料金：前売（3月1日販売開始）

一般 3,000円（当日3,500円）

高校生以下 1,500円（当日2,000円）

先行予約（2月1日販売開始）

一般 2,500円

高校生以下 1,000円

出演：村田雄浩、川上麻衣子、豊田一輪車クラブほか

趣向：

休憩時は、演出の一環として小説「津軽」に登場する宴会シーンで、太宰治が好きだった郷土料理（軽食）を観客に配布し、俳優とともに再現した。

来場者サービス：

- ・終演後、青森駅まで無料シャトルバスを用意。
- ・各公演の開場から終演までの間、無料託児を実施（1歳から小学3年生まで）。
- ・カフェ「4匹の猫」において、17時から18時30分（ラストオーダー18時）まで臨時営業を実施。
- ・演劇「津軽」のチケット（使用済・未使用可）の提示で、美術館常設展・企画展を団体割引で鑑賞可能とした。

成果：

震災による観客動員への影響も心配されたが、全5ステージ合計2,004名の観客に会場してもらい、観客動員100%で公演を行うことが出来た。また、本公演とは別に被災者支援特別公演を行った。カーテンコールの際、「元気をありがとう」という声が観客席からあがり、この作品が、社会状況が変化しようとも、見ている人間の心を豊かにする普遍的な作品であることが改めて確認でき、また観客からも青森県を代表する作品として今後も上演を行ってほしいと希望する声も多かった。

観客動員数：

被災者支援特別講演 172人

一般公演（5公演合計） 2,004人

4 広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内外の舞台公演等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

(1) 宣伝

宣材物作成枚数：

チラシ【先行予約】（A4版） 90,000枚

チラシ （A4版） 50,000枚

ポスター （B2版） 1,000枚

ポスター （B1版） 300枚

宣材物配布先：

県内文化施設、県内公立高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店へ掲示を依頼。

チケット販売：

全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド6カ所に販売を委託。

(2) 広報

- ・マスコミ公開稽古及び公開リハーサルの開催。
- ・新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ・テレビ・ラジオにおいて、告知依頼。
- ・県内各広報誌において告知依頼。

(3) 記録

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



演劇「津軽」青森県立美術館野外公演



演劇「津軽」青森県立美術館野外公演

ドラマリーディングクラブ事業

1 事業概要

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境をパフォーマンスアート部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ（2009年設立）」を軸として、参加意欲のある県民を募り、パフォーマンスアート部門において対象として不足していた「子ども」に視点を置いて舞台芸術の活性化を図った。その他、「あらしのよるに」のように確実に来場者が増加するメニューを実施することで、美術館の利用促進を図った。

運営主体 青森県立美術館パフォーマンス推進実行委員会、青森県立美術館

2 ドラマリーディングクラブ

(1) 設立 2009年度

(2) 参加条件

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費など、活動に際して個人に係るものは全て自己負担

(3) 活動場所

青森県立美術館施設内を基本とする。

(4) 募集期間

募集定員に達するまで随時募集

(5) 定員

50名（欠員が出た場合は補充）

(6) 参加料

無料（交通費・食費等の個人に係わるものは全て自己負担となる。）

(7) 選考方法

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

(8) 稽古内容・日程

- ・青森県立美術館パフォーマンス専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を

使い、空間を意識しつつ朗読する。

- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。
- ・週1回の稽古を基本とする。
- ・公演1週間前は毎日稽古を行う。

3 公演詳細

(1) 定期公演

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演 vol.6 『あらしのよるに』

上演作品：『あらしのよるに』『あるはれたひに』『くものきれまに』『きりのなかで』『どしゃぶりのひに』『ふぶきのあした』『まんげつによるに』

日時：2011年12月2日（金）18：30 開演

12月3日（土）14：00 開演

12月4日（日）14：00 開演

※開場は開演30分前。受付は1時間前。

会場：青森県立美術館シアター

料金：無料（予約制・限定200席）

作：きむらゆういち

絵：あべ弘士

構成・監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術アシスタント）

出演：ドラマリーディングクラブ員 12名

観客動員数：540名

(2) 青森県立美術館企画サポート公演

- ・青森県立美術館の企画展等をテーマとした公演。
- ・県立美術館の教育・普及活動に寄与する公演。

①八角堂賑わい創出特別企画「the Sout side プロジェクト」サポート公演

『11ぴきのねこ』シリーズドラマリーディング

上演作品：『11ぴきのねこ』『11ぴきのねことあほうどり』『11ぴきのねことへんなねこ』

日時：2011年9月10日（土）18：30-19：15

会場：八角堂周辺トレンチ

料金：無料

作：馬場のぼる

監修：長谷川孝治
構成・演出：田邊克彦
出演：ドラマリーディングクラブ員 10名
観客動員数：95名

②企画展「今和次郎 採集講義」サポート公演
「今和次郎 ことばとまなざし」リーディング

上演作品：『民家編』『服装研究編』『考現学編』
日時：2011年10月12日（水）18：00（民家編）
19日（水）18：00（服装研究編）
26日（水）18：00（考現学編）

会場：ギャラリー NOVITA（青森市）

料金：無料

原著：今和次郎

監修：長谷川孝治

構成・演出：田邊克彦

出演：ドラマリーディングクラブ員 11名

観客動員数：44名

③パフォーミングアーツ復興支援事業

『東北からの声 東北の現在』

日時：2012年1月21日（土）10：00－15：30

会場：青森県立美術館シアター

料金：前売り1,000円（当日1,500円）

※第1部のみ有料、第2部は無料

※入場料収入は、全額主催の「復興書店」より「東日本大震災
寄付金」として日本赤十字社に寄付。

観客動員数：246名

【第1部】

主催：復興書店

共催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

【第2部】

主催：青森県立美術館、青森県立美術館パフォーミングアーツ
推進実行委員会

協力：復興書店・せんだい舞台芸術復興支援センター・三角フ
ラスコ・弘前劇場

第1部 ドラマリーディング「東北からの声」

被災地で活動する演劇人と、震災後の想いを作品にした小説家
が贈るドラマリーディング。

・上演作品「冬眠まんざい」

作：秋浜悟史 演出：石川裕人

出演：Theatre Group “OCT/PASS”（宮城県名取市）なか
じょうのぶ（宮城県栗原市）

・上演作品：『キル兄にゃとU子さん』

作・演出：大信ペリカン 出演：満塁鳥一座（福島県福島市）

・上演作品：『たいせつなあなたの悲しみのために』『魂がある

ことにしよう」と決めた日』『どっ』／中沢けい、『空に刻む』／
佐伯一麦

作・演出・出演：中沢けい、佐伯一麦

第2部 ドラマリーディング・シンポジウム「東北の現在」
あおり犬は、何を見つめ、何を想い、何を抱いているのか。
その想いを現在の東北へのメッセージを込めて、中学生・県民
参加者・県内演劇人・青森県立美術館ドラマリーディングクラ
ブが声を響かせ伝えるドラマリーディングと、被災地で活動す
る演劇人、復興支援を行っている小説家が、文化・芸術の視点
から「東北からの声」と「東北の現在」、そして「これからの東北」
を考えるシンポジウム。

・ドラマリーディング上演

『あおり犬のおはなしービートルズの引用によるー』

作・演出：長谷川孝治

出演：県民参加者、三内中学校演劇部、メロス会、ほほえみ
の会、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ、弘前劇場
・パネルディスカッション

パネリスト：中沢けい、佐伯一麦、石川裕人、なかじょうのぶ、
大信ペリカン

ナビゲーター：長谷川孝治

アドバイザー：横道 文司、野田 昭彦（国際交流基金舞台芸術
チーム）

4 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教
育機関等、県内道の駅を中心に配布、掲示を依頼した。また、
県内の劇団公演への折り込み、PA顧客等へダイレクトメール
の配布を実施した。県内新聞等へ告知・取材の依頼、県内 FM
ラジオ局・民放ラジオ局・コミュニティーFM局・青森市内ケー
ブルテレビ局へ番組上での告知をお願いした。

(1) 宣 伝

宣材物作成枚数：

「クラブ員公募」 チラシ（A4版）1,000枚 通年配布

「あらしのよるに」

公演チラシ（A4版）10,000枚 10月－配布

「東北からの声 東北の現在」

チラシ（A4版）6,000枚 11月－配布

「東北からの声 東北の現在」

ポスター（B2版）200枚 11月－配布

(2) 広 報

・県内新聞各社において公演の告知依頼

・県内テレビ・ラジオにおいて告知依頼。

(3) 記 録

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



「あらしのよるに」



「東北からの声 東北の現在」

音楽

アレコホール東アジアステイタス戦略事業 チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション ー偉大なる芸術家の思い出にー

1 事業概要

青森県立美術館が所蔵するバレエの背景画「アレコ」は、チャイコフスキーのピアノトリオにインスパイヤーされて、レオニード・マシーンが振付をし、シャガールが舞台美術を担当したものである。

背景画が舞台美術として生きた時代を観客に伝えることを目的に、本物の舞台背景画3幕と空間を共有するコンサートを開催し、チャイコフスキーの「ピアノトリオ イ短調 作品50 “偉大なる芸術家の思い出に”」を演奏することとし、その演奏者を募集した。

(1) オーディション参加資格

①参加者の国籍・居住地・年齢・プロ・アマチュアの別を問わない。

②オーディションに合格した場合、平成24年2月18日（土）、同館で行われる公開演奏会に、チャイコフスキーのピアノトリオ全楽章を含む50-70分のプログラムを持って出演・演奏が可能な組。

※オーディション参加団体数は60組とする（先着順）。

(2) 選考方法

①演奏作品はチャイコフスキー「ピアノトリオ イ短調 作品50」とする。

②オーディションでの演奏楽章は当日指定する。

③公開オーディション開催日に青森県立美術館にて指定の時間に演奏する。

(3) 主催

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

(4) 審査委員

浅野清（弘前大学教授）、花崎薫（愛知県立芸術大学准教授）、小関郁（ヴァイオリニスト）、松原千代繁（(財)アニフィス文化財団評議委員）、長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

(5) 日程

オーディション実施日：2011年12月23日（金・祝）

応募締切：2011年11月21日（月）必着

(6) 応募方法

代表者・その他参加者の住所・氏名・年齢・電話番号・担当楽器・音楽履歴を明記し、郵送又はFAX、Eメールにて送付するか、当館へ直接持参する。

2 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ、ポスターを日本語版・英語版の両方を作成し、国内の文化施設、教育機関、音楽教室、音楽団体等を中心に配布、掲示を依頼したほか、国内各地のコンサート等への折り込みを依頼した。

海外については、アメリカやドイツをはじめとするヨーロッパの音楽大学を中心に英語版チラシを送付した。

(1) 宣伝・広報

・宣材物作成枚数・配布時期

オーディション チラシ（A4・日本語版）

30,000枚 8月-配布

オーディション チラシ（A4・英語版）

3,000枚 8月-配布

オーディション ポスター（B2版）500枚

8月-配布

・新聞各社（地方紙、全国紙）及び音楽専門誌への告知を依頼。

・県立美術館、音楽関係団体ホームページへ情報掲出。

(2) 記録

・記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。

3 オーディション詳細

背景画が舞台美術として生きた時代を観客に伝えることを目的に、全国から6組（18名）の演奏者が参加し、一般公開でチャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディションを開催した。最優秀組に選ばれた「Interno」は2012年2月18日（土）開催の青森県立美術館ピアノトリオコンサートに出演した。

(1) 日時

2011年12月23日（金・祝）10：00-14：30

6組演奏 休憩（60分）

(2) 審査結果

・応募数 7組（21名）

- ・ 辞退者数 1組（3名） 辞退理由：故障者等
- ・ 参加者数 6組（18名）

(3) 申込者居住地

国内：埼玉県、東京都、茨城県、神奈川県

(4) 最優秀組

「Interno」

ピアノ：矢野雄太

ヴァイオリン：藤原晶世

チェロ：藤原秀章

(5) 最優秀組出演の演奏会

- ・ 演奏会名 チャイコフスキーピアノトリオコンサート

・ 演目

ヘンデル＝ハルヴォルセン

「パッサカリア」

バッハ＝ブゾーニ

『無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ

2番 二短調 BWV1004』より シャコンヌ

チャイコフスキー

「ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50」

- ・ 日時 2012年2月18日（土）
18時30分開場 19時00分開演
- ・ 会場 青森県立美術館アレコホール
- ・ 料金 大人2,500円 学生2,000（当日は全て500円増し）
- ・ 小・中・高校生を、先着60名まで無料招待。



「チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション」

アレコホール定期演奏会青森県立美術館開館5周年記念「音・光・影」

1 事業概要

アレコホールコンサートを、海外（東アジア）へ広く発信し、「すべての芸術の融合を目指す美術館」という県立美術館として平成23年度は、弘前市在住のピアニスト村田恵理さんをお招きし、青森県立美術館開館5周年記念『音・光・影』と題し、7月から2ヶ月に一度、計5回開催した。

2 運営主体

主催 青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

3 入場料金

前売：ペア券（一般2名） 3,500円

一般券（一般） 2,000円

（学生） 1,500円

（当日は全て500円増し）

4 広報宣伝、営業概要

演奏会宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

また、小中学生無料御招待を行うため、県内小・中学校へ生徒数分のチラシを送付、生徒全員へのチラシ配布を実施した。

(1) 宣伝

- ・ 宣材物作成枚数 ※館内で印刷
「音・光・影」チラシ（A4版） 80,000枚
ポスター（B2版） 50枚
- ・ 宣材物配布開始 5月中旬ー

(2) 広報

- ・ 新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ・ 県内ラジオにおいて告知。
- ・ 県内各広報誌において告知。

5 来場者サービス

(1) 託児サービス

各公演の開場から終演までの間、託児サービスを実施。

(2) シャトルバス

演奏会終演後、無料で青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業

演奏会公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

6 各公演詳細

出演者：村田 恵理

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200席（全席自由）

※県内在住の小学校4年生から高等学校までを、事前予約の上、各回とも先着60名に限り、無料で招待した。

第1回 2011年7月16日（土）

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

・演奏曲目

ドビュッシー：「映像」第1集 水の反映 / ラモーを讃えて / 運動

ショパン：ノクターン 第18番 ホ長調 作品62-2

ショパン：舟歌 嬰へ長調 作品60

ラヴェル：「鏡」蛾 / 悲しき鳥 / 洋上の小舟 / 道化師の朝の歌 / 鐘の谷

・観客動員 225名（113%）

うち、招待 小・中学校生招待 71名

一般招待 2名

第2回 2011年9月17日（土）

19時開演 18時30分開場 18時受付開始

・演奏曲目

シューマン：ロマンス作品28-2

シューマン＝リスト：献呈（ミルテの花 第1曲）

リスト：愛の夢

リスト：ため息

リスト：慰め

リスト：パガニーニ大練習曲 第6番

シューマン：「謝肉祭」 作品9

・観客動員 179名（90%）

うち、招待 小・中学校生招待 48名

一般招待 5名

第3回 2011年11月12日（土）

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

・演奏曲目

ブラームス：6つの小品 作品118より（1. 間奏曲 イ短調
2. 間奏曲 イ長調）

ブラームス：2つのラプソディー 作品79より 第2曲ト短調

バッハ＝ブゾーニ：シャコンヌ

ワーグナー＝リスト：イゾルデの愛の死

リスト：巡礼の年 第2年 イタリアより（第5曲ペトルカ
のソネット 104番 / 第7曲ダンテを読んでーソ
ナタ風幻想曲ー）

・観客動員 137名（69%）

うち、招待 小・中学校生招待 44名

一般招待 2名

第4回 2012年1月14日（土）

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

・演奏曲目

ベートーヴェン：バガテル変ホ長調作品33-1

ベートーヴェン：バガテルイ短調 WoO59「エリーゼのため
に」

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第3番 ホ長調 作品2-3

ショパン：マズルカ 第13番 イ短調 作品17-4

ショパン：マズルカ 第45番 イ短調 作品67-4

ショパン：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品35 「葬送」

・観客動員 114名（57%）

うち、招待 小・中学校生招待 42名

一般招待 2名

第5回 2012年3月10日（土）

18時開演 17時30分開場 17時受付開始

・演奏曲目

グリムカ＝バラキレフ：ひばり

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ

ドビュッシー：前奏曲集より「亜麻色の髪の乙女」/「ヴィー
ノの門」

ラフマニノフ：幻想小曲集より（エレジー 作品3-1/ 前奏曲
嬰ハ短調 作品3-2）

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

・観客動員 140名（70%）

うち、招待 小・中学校生招待 38名

一般招待 6名

7 演奏家プロフィール

村田恵理 piano

釜石生まれ、弘前育ち。4歳よりピアノを始める。

青森明の星高等学校音楽科卒業。

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。

これまでに石郷勝彦、友田恭子、北川暁子、小林 仁、クリストファー・エルトン、キャサリン・ストットの各氏に師事。1991年ピティナピアノコンペティション、1993年日本ピアノ教育連盟主催ピアノオーディションで全国大会入選。1997年岩手県ピアノ音楽コンクール銀賞、同年イタリア・セニガリア国際青少年ピアノコンクール第4位入賞。2004年ハンガリー・リスト音楽院マスタークラス受講者に選考される。同年8月青森市、弘前市で初のリサイタルを開催し、渡英。マンチェスター・チータム国際音楽祭に参加し、ヨンティ・ソロモン、小川典子両氏の指導を受けるとともに、音楽祭にてリサイタルを行う。

英国王立音楽院大学院課程ディプロマコースを卒業し、2006年帰国。

2009年4月、5月と2回にわたり青森県立美術館「ウィーン美術史美術館 静物画の秘密展」関連企画によるソロリサイタルを行う。2010年7月、10月には青森県立美術館アレコホールコンサート「東アジアの音」に出演。2010年東京文化会館主催 第8回東京音楽コンクールピアノ部門セミファイナリスト。帰国後はソロリサイタルのほか、N響メンバーによるシュトス弦楽四重奏団、深山尚久氏（ヴァイオリン）と共演するなど、室内楽、器楽・声楽の伴奏等、積極的に幅広い演奏活動を行うと共に後進の指導にもあたっている。

NHK文化センター弘前教室講師。弘前市在住。



青森県立美術館アレコホール定期演奏会「音・光・影」

アレコホールでピアノレッスン

1 事業概要

「音・光・影」演奏会前日、美術館閉館後のアレコホールで、ピアニスト村田恵理さんが、県内の小中高校生の皆様を対象に、個人レッスンをを行った。

受講者は3名とし、応募多数の場合、受講申し込みの作文や、曲目により選考した。

実施日時：2011年11月11日（土）、2012年1月13日（土）、
3月9日（土）

いずれも 17:00-

講師：村田 恵理

会場：青森県立美術館アレコホール

レッスン時間：1人15分程度

定員：各日、最大3名（書類選考）

受講料：無料

※但し、美術館までの交通費は受講者負担。

応募条件：

①青森県内に在住の、小学校1年生から高校3年生であり、翌

日の演奏会を鑑賞する方

②ピアノの学習に前向きに取り組んでいる方。（主にソナチネ以上の教本を勉強中の方を対象とし、現在、村田恵理氏から継続的に指導を受けている方はご遠慮いただきました。）

③事務局指定の時間に、美術館に来館し、レッスンを受講出来る方

2 レッスン受講者とプログラム

2011年11月11日（金）計3名

(1) 五所川原市在住：小学4年生

6つのやさしい変奏曲（ハイドン）

(2) 青森市在住：小学6年生

ベルガマスク組曲よりパスピエ（ドビュッシー）

(3) 青森市在住：高校3年生

ラベスク第1番（ドビュッシー）

2012年1月13日（金）計3名

(1) 青森市在住：小学4年生

ワルツ Op70-2（ショパン）

(2) 青森市在住：小学5年生

ピアノソナタ ハ長調 KV.545 より第一楽章（モーツァルト）

(3) 青森市在住：小学6年生

トッカータ（ハチャトゥリアン）

2012年3月9日（金）計4名

(1) 青森市在住：小学2年生

乗馬（ブルグミュラー）

(2) 青森市在住：小学4年生

ソナタ KV 330（モーツァルト）

(3) 青森市在住：小学4年生

ウクライナ民謡による7つの陽気な変奏曲

（カバレフスキー）

(4) 青森市在住：小学5年生

二声のインヴェンションより第6番長調 BWV.777（バッハ）

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76 m ²)	2,130 円	3,400 円	1 時間 850 円
B (60.47 m ²)	880 円	1,400 円	1 時間 350 円
C (131.30 m ²)	1,880 円	3,000 円	1 時間 750 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。

※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70 m ²)	2,500 円	4,000 円	1 時間 1,000 円
B (140.39 m ²)	2,000 円	3,200 円	1 時間 800 円
C (389.51 m ²)	5,500 円	8,800 円	1 時間 2,200 円
D (228.06 m ²)	3,250 円	5,200 円	1 時間 1,300 円
E (105.91 m ²)	1,500 円	2,400 円	1 時間 600 円
映像室 (70.38 m ²)	1,000 円	1,600 円	1 時間 400 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。

※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター [220 席] (348.20 m ²)	1 時間 2,400 円
映写室 (36.36 m ²)	1 時間 260 円
アナウンスブース (6.35 m ²)	1 時間 50 円
ワークショップ A (124.38 m ²)	1 時間 900 円
ワークショップ B (185.28 m ²)	1 時間 1,300 円
暗室 (22.45 m ²)	1 時間 160 円
スタジオ (100.98 m ²)	1 時間 720 円
映像編集室 (24.77 m ²)	1 時間 180 円
スタジオ映写室 (28.88 m ²)	1 時間 210 円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。

※ 2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できます。

※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。

※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

※ 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

使用時間は、美術館の開始時間 [9時30分から17時まで(6月-9月は、9時から18時)] とし、各施設の取扱は以下のとおりとする。

① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間 [9時30分から17時まで(6月-9月は、9時から18時)] とします。

なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。

② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)

③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。

④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■企画展示室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
9/1-1/13	青森放送(株)	スタジオ・ジブリレイアウト展	A B C D E 映像室 シアター 映写室 ワークショップA	132,748

■コミュニティギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/22-25	村上あさ子	村上あさ子 津軽裂織 it16 -マリンブルーからアクアヘー	B	90
4/26-5/5	上路利春	小さい切手美術館&マッチ博物館移動展	B	170
5/14-16	(株)阿部重組	第10回未来をのぞく住宅展	A B C	237
5/25-6/7	長野 美保	佐々木宏子〈青のあいだ〉展	A B C	435
7/16-20	日本表象美術協会青森支部	第14回 日象青森展	A B C	222
8/16-22	外崎 葉子	外崎葉子個展	B C	200
8/28-29	住友生命青森支店	第34回スミセイこども絵画コンクール	A B C	800
8/31-9/5	現代美術の展望北東北展事務局	現代美術の展望 北東北展2010	A B C	577
9/17-20	(株)阿部重組	第11回未来をのぞく住宅展	A B C	309
9/21-27	(社)青森県文化振興会議	第51回青森県美術展覧会 県展2010	A B C	1,347
10/1-4	すまいのエコロジー展実行委員会	すまいのエコロジー展	A B C ワークショップB	452
10/8-10	MOA美術館青森児童作品展実行委員会	第22回MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター 映写室	1,700
10/16-17	青函交流展青森実行委員会	アオダテハコ森2010 若手作家による青函交流美術展	A B C	353
10/29-31	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains 作品展「ぶるん」	A B C	150
11/1-3	全国共済農業協同組合連合会青森県本部	第54回JA共済青森県小・中学校書道コンクール及び第33回JA共済青森県小・中学校交通安全ポスターコンクール	A B C	114
11/5-8	青森県教育委員会教育長	三内丸山遺跡特別史跡指定10周年記念フォーラム	A B C シアター 映写室	480
11/19-23	(株)阿部重組	第12回未来をのぞく住宅展	A B C	479
11/27-28	社会福祉法人平館福祉会	ギャラリーかもめ2010	B	109
12/3-4	青森中央短期大学	青森中央短期大学幼児保育学科「40期生卒業記念公演」	A B C スタジオ	140
12/17-26	青森県教育長	三内丸山遺跡特別史跡指定10周年記念縄文絵画コンクール 作品展示	B C	350
1/7-10	青森県中学校教育研究会美術部会	第24回青森県中学校選抜美術展	A B C	700
2/23-3/7	企画調整課長	JOMO-T展 in AOMORI -縄文×Tシャツアート展-	A B C	650
3/9	Kakuta Takuya 代表 角田 聡	Kakuta Takuya Live Set	C	10

■シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/11	稲田 公	映画上映「ウルトラマン銀河伝説」	シアター 映写室	150
5/14-16	柳谷暁彦	柳谷暁彦作品展「LANDS」	シアター 映写室	300
5/16	(有)弘前劇場	「お日様の匂い」ワークショップ	スタジオ	30
5/17、5/23-24	青森県理容生活衛生同業組合	第52回青森県理容競技大会 理容師2010メッセージ 青森大会	シアター 映写室 コミュニティギャラリーABC スタジオ ワークショップA	330
6/15	青森映研 稲田 公	映画上映「悲しみよりもっと悲しい物語」	シアター 映写室	80
12/2	(有)オフィスホルドオン	工藤雄一 Birthday Concert FINAL	シアター 映写室	200

■ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/10、4/24	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	30
5/1、5/29、6/19 7/3、7/17	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	75
6/6	青森公立大学国際芸術センター青森	「24 OUR TEREVISION」スタッフ募集説明会	A	25
8/7、8/16、9/4、 9/18、10/9、 10/16	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	68
8/21-22	ねぶた制作者北村隆後援会 北村会	「ねぶた面製作」講習会	A	160
8/21	総合販売戦略課	「買ってもらえる商品づくり支援事業」現地アドバイス会	B	10
9/30-10/1	青森県総合学校教育センター	図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	A	49
10/12-18	青函交流展青森実行委員会	アオダテハコ森2010 若手作家による青函交流美術展	A	19
11/5	青森市建設技術協会	青森市・新潟市女性技師技術交流ワークショップ	A	22
11/13、12/4、 12/18、1/15 1/29	B-Plains 代表 蒔苗正樹	B-Plains ワークショップ	A	50
1/6	青森市小学校教育研究会図画工作部会	図画工作科研究部会冬季研修会	B	60

合計 144,480 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10：00－16：00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1－3を理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

蔵書数

(平成20年度3月末現在)

・美術図書	1,768冊
・デザイン・建築関係図書	250冊
・写真関係図書	145冊
・絵本・イラスト関係図書	946冊
・民族・歴史関係図書	122冊
・音楽・映画・舞台関係図書	166冊
・展覧会カタログ	3,381冊
・雑誌（52タイトル）	1,004冊

(平成21年度登録分)

・美術図書	786冊
・デザイン・建築関係図書	152冊
・写真関係図書	61冊
・絵本・イラスト関係図書	238冊
・民族・歴史関係図書	87冊
・音楽・映画・舞台関係図書	82冊
・展覧会カタログ	3,310冊

・雑誌（37タイトル） 1,783冊

(平成21年度3月末現在)

・美術図書	2,555冊
・デザイン・建築関係図書	402冊
・写真関係図書	206冊
・絵本・イラスト関係図書	1,183冊
・民族・歴史関係図書	209冊
・音楽・映画・舞台関係図書	248冊
・展覧会カタログ	6,691冊
・雑誌（57タイトル）	2,787冊

(平成22年度3月末現在)

・美術図書	3,184冊
・デザイン・建築関係図書	438冊
・写真関係図書	232冊
・絵本・イラスト関係図書	1,202冊
・民族・歴史関係図書	268冊
・音楽・映画・舞台関係図書	404冊
・展覧会カタログ	8,024冊
・雑誌（57タイトル）	6,587冊

(平成23年度3月末現在)

・美術図書	3,690冊
・デザイン・建築関係図書	403冊
・写真関係図書	313冊
・絵本・イラスト関係図書	1,323冊
・民族・歴史関係図書	315冊
・音楽・映画・舞台関係図書	662冊
・展覧会カタログ	9,045冊
・雑誌（57タイトル）	7,664冊

※継続購入は27タイトル

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：314日

利用者数：6,561人

レファレンス利用件数：19件

図書室利用統計表

	開室日数 (日)	入室者数 (人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均
4月	20	133	6.7	1	0.1
5月	29	347	12.0	3	0.1
6月	22	249	11.3	0	0.0
7月	29	723	24.9	0	0.0
8月	29	1,438	49.6	3	0.1
9月	30	1,242	41.4	5	0.2
10月	26	827	31.8	2	0.1
11月	28	299	10.7	4	0.1
12月	21	337	16.0	1	0.0
1月	29	305	10.5	0	0.0
2月	27	244	9.0	0	0.0
3月	24	417	17.4	0	0.0
計	314	6,561	20.9	19	0.1

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめとして、スイスの naef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置し、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的で開催し、絵本や工作などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

- (4) 2011年8月27日（日）10：00－15：00
参加者数：81人
- (5) 2011年9月24日（土）11：00－12：00
参加者数：85人
- (6) 2011年10月22日（土）11：00－12：00
参加者数：55人
- (7) 2011年11月26日（土）11：00－12：00
参加者数：47人
- (8) 2012年1月28日（土）11：00－12：00
参加者数：40人
- (9) 2012年2月25日（土）11：00－12：00
参加者数：70人

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00－15:00

平成23年度キッズルーム利用実績

	開室日数（日）		入室者数（人）		平均	
	月計		こども	おとな		
4月	5		95	606	701	140.2
5月	29		1,080	4,521	5,601	193.1
6月	22		533	1,231	1,764	80.2
7月	30		280	405	685	22.8
8月	30		773	1,554	2,327	77.6
9月	30		1,358	4,196	5,554	185.1
10月	17		820	2,295	3,115	183.2
11月	28		161	167	328	11.7
12月	16		53	64	117	7.3
1月	11		51	48	99	9.0
2月	8		87	94	181	22.6
3月	9		85	102	187	20.8
計	235		5,376	15,283	20,659	87.9

「キッズルームおはなし会」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、創作体験などを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、当館サポートスタッフが担当した。

- (1) 2011年5月28日（土）11：00－12：00
参加者数：40人
- (2) 2011年6月25日（土）11：00－12：00
参加者数：50人
- (3) 2011年7月23日（土）11：00－12：00
参加者数：103人

博物館実習

概要

博物館法施行規則第 1 条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2011年8月18日（木）－8月22日（月）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：5名

弘前学院大学（2名）、東京国際大学（1名）、帝京大学（1名）、東北生活文化大学（1名）、岩手大学（1名）

プログラム

平成23年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月18日（木）

- ①オリリエンテーション
- ②青森県立美術館の概要について
- ③教育普及美術館の施設およびサイン計画について（+施設見学）
- ④学芸員の仕事について
- ⑤来館者対応、ホスピタリティーについて
- ⑥実習日誌作成

第2日目 8月19日（金）

- ①コレクションの形成、作品のデータ管理について
- ②作品の保存・管理・修復について
- ③作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ④展示デザイン（展示方法、造作、照明、キャプション等）
- ⑤実習日誌作成

第3日目 8月20日（土）

- ①美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ②地方における美術館の役割について
- ③展覧会の普及活動：創作プログラム実技
- ④実習日誌作成

第4日目 8月21日（日）

- ①展覧会の企画について
- ②展覧会の実施について
- ③展覧会の運営および広報活動について
- ④実習日誌作成

第5日目 8月22日（月）

- ①[演習] 展覧会を企画してみよう
- ②[演習] 企画した展覧会を発表してみよう
- ③地域の芸術文化の発信 「今和次郎展」をめぐって
- ④実習日誌作成

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用しての広報活動を中心とした広報活動を柱としつつ、県政記者クラブ等のメディアとの連携にも注力し、パブリシティの有効活用をしながらの広報活動を行った。

その他、道の駅等の他分野施設や地域の商店街などへのポスター・チラシの設置等、県内での浸透を図るための広報活動も積極的に行った。

また、今年度は Twitter や Facebook 等のソーシャルメディアネットワークによる積極的な行った。

(1) 広告・宣伝等

- ・屋外看板による当月イベントカレンダーの設置
- ・観光キャンペーンやイベント会場での PR ブース設置 等

(2) 印刷物等

- ・施設パンフレット
- ・年間スケジュールパンフレット

※これらの印刷物については、ビジュアル・アイデンティティ (VI) の観点から、全てのデザインを菊地敦巳氏に依頼、制作している。

(3) Web サイト

- ・ブログと企画展（印象派展）特設 Web サイトとの連携
- ・ヒット数 12,817,293 件
- ・アクセス数 255,306 件
- ・Twitter、Facebook、YouTube にて公式アカウントを開設。

(4) 他分野との連携

- ・道の駅・文化施設・他の美術館等へのポスター・チラシの設置
- ・教育旅行説明会への参加
- ・県内小中高への情報提供
- ・県外事務所への情報提供 等

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部教授）

会議開催状況：

・第11回

開催日：平成24年3月29日（木）

会場：青森県立美術館

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成23年度

懇話会委員：

座長：一町田工（三内丸山応援隊長）

副座長：村山康子（十和田市現代美術館前館長）

委員：中村泰子（千刈小学校長）

委員：毛内秀登（立佞武多の館館長）

委員：野坂佳孝（十和田市立法奥小学校教諭）

委員：大黒亜紗子（はちえきキャンパス in 八日町スタッフ）

委員：増田由美子（フリーアナウンサー）

委員：成田英久範（青森県立美術館サポートスタッフ）

委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

開催日：平成24年3月24日（土）

会場：青森県立美術館

※東日本大震災の影響により美術館の運営スケジュールが変更されたこと等により、平成23年度の会議は1回だけの開催となった。

※平成23年度の委員は、平成22年度第2回の会議を以て一部の委員を交代する予定であったが、平成23年3月13日（日）に開催予定の会議が、東日本大震災の影響により会議を中止したことを受け、平成22年度の委員の了解を得た上で委員の任期を延長し開催した。

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度①	23年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	△ 91,288
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	△ 4,797
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	△ 96,085
企画展	シャガール展	192,918						
	縄文と現代展	14,894						
	工藤甲人展	1,680	10,950					
	旅順博物館展		30,065					
	舞台芸術の世界展		6,282					
	棟方志功・崔榮林展		4,156					
	寺山修司展			9,533				
	大ナボレオン展			46,609				
	小島一郎展			8,660				
	ウィーン展				36,884			
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)			
	馬場のぼる展				25,464			
	ラブラブショー				5,160			
	ローマ展					45,622		
	ロボット展					25,076		
	芸術の青森展					3,530		
	印象派展						105,758	
今和次郎展						4,807		
	企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	36,337
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	96
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,365	10,647
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	713
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	1,328	△ 6,218
	その他	500		464	266	399	387	△ 12
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	5,226
パフォーマンス	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	1,877
	ダンス			1,419	1,089	520	0	△ 520
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	9
	映画	975	1,954	1,584	685	0	0	0
	パフォーマンス計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	1,366
貸館		10,568	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	△ 123,785
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	△ 1,303
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	16,946
	合計	456,273	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	△ 161,298

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 23 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	35,525	使用料及び手数料	173,360	職員費	人件費
	2,279	財産収入	581,631	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	125,801	繰入金			
	138,749	諸収入	12,653	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	465,290	一般財源			
合計	767,644		767,644		

平成 23 年度 一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	37,354	使用料及び手数料	172,014	職員費	人件費
	2,278	財産収入	570,673	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	131,267	繰入金			
	130,322	諸収入	12,151	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	453,617	一般財源			
合計	754,838		754,838		

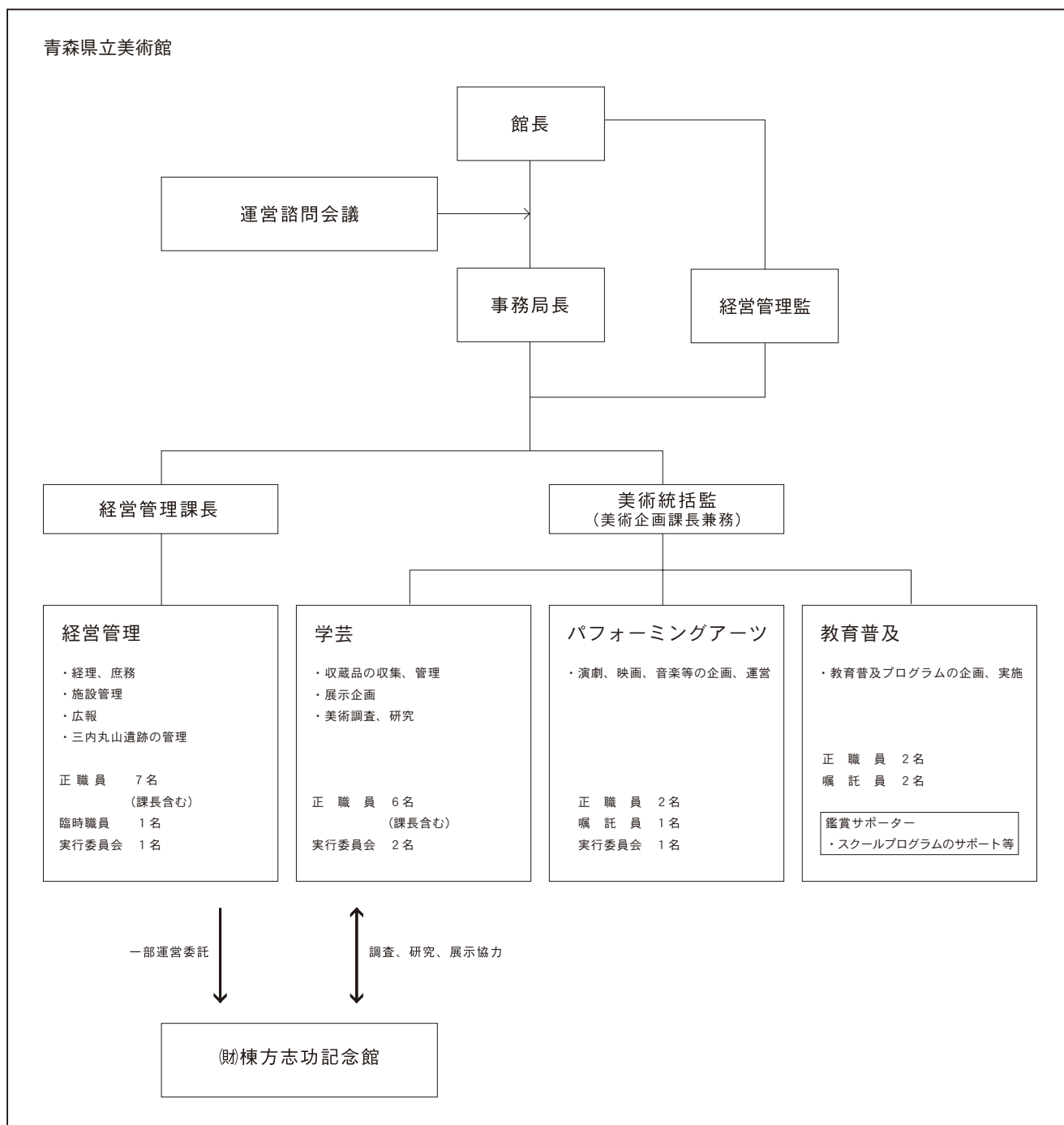
組織

□県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。

□文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。

□このために館長の下、特別職の経営管理監、県職員18人、嘱託員及び臨時職員4人の計24人が美術館運営にあたっている。このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ部門の実行委員会職員1名が配置されている。

(平成23年4月2日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から十二時まで	十三時から十七時まで	九時三十分以前、十二時から十三時まで及び十七時以降（一時間につき）
コミュニティギャラリーA	二千三百円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千元	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
贈室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4

項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。） 使用料の全部の額
四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託

又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、館長が招集する。

2 諮問会議の進行は、青森県立美術館事務局長が務める。

3 諮問会議には、委員の同意により必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、青森県立美術館事務局長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

2 第4第1項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委

嘱をした日から平成19年3月31日までとする。

附則

この要綱は、平成21年10月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第2 懇話会は、10名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成19年9月13日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計管理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施工企業体	竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面積	敷地面積：129,536.37 m ² 建築面積：7,223.07 m ² 延床面積：21,222.19 m ² 地下2階：4,736.15 m ² 地下1階：3,965.11 m ² 1階：5,339.02 m ² 2階：2,403.81 m ² 3階（機械エリア）：4,778.10 m ² 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階数	地下2階 地上3階
寸法	最高高：16,160mm 軒高：15,150mm 階高：地下2階 2,300－19,000mm 地下1階 2,500－7,500mm 1階 2,700－11,000mm 2階 2,500－4,000mm 主なスパン：3,000mm×3,000mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階） 鉄骨造（地上1－3階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST杭）600φ・700φ、 （PHC杭）600φ

空調設備	A H U・定風量単一ダクト方式、一部F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿用蒸気ボイラ
照明設備	スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末ABC消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3系統）
防犯設備	開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備	給水：受水槽（42t）+加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水
電気設備	受電方式：高圧電力 3φ3W 6,600V 1回線受電（業務用電力+融雪電力） 設備容量：2,650kVA 契約電力：660kW 予備電源：非常用発電設備 500kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇降機	荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間	1999年12月－2002年3月
施工期間	2002年12月－2005年9月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t=20mm+防塵防汚塗装

壁：合板 t=15mm×2+プasterボード t=12mm+全面寒冷紗パテ処理+E P

天井：合板 t=12mm+プasterボード t=9mm + E P

展示室（土）

床：タタキ t=50mm

壁：版築 t=200mm

天井：合板 t=12mm+プasterボード t=9mm + E P

コミュニティホール

床：クリフローリング t=15mm

壁：プasterボード 12mm×2+スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t=8mm+カーペット t=7mm

壁：プasterボード t=15mm+グラスウールボード+エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理）

天井：グラスウール+プasterボード t=15mm +エキスパンドメタル t=6mm（樹脂コーティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット 600mm×600mm+コンパネ t=12mm+クリフローリング t=15mm

壁：プasterボード t=12mm×2+E P

天井：プasterボード t=12mm+吸音板 t=12mm+E P

アクセス

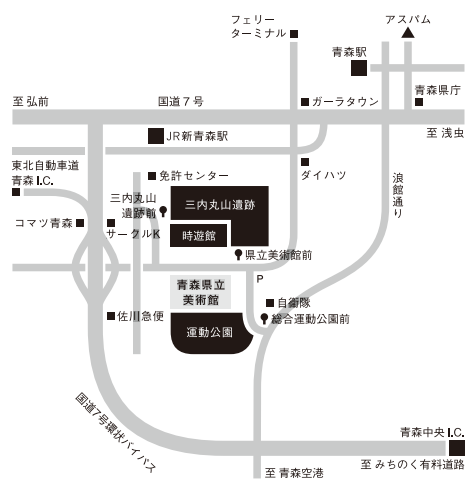
JR 青森駅から車で約 20 分

青森空港から車で約 20 分

東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分

市営バス青森駅前 2 番バス停から免許センター行き

「県立美術館前」下車（所要時間約 20 分）



青森県立美術館年報

平成 23 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2012 年 12 月